

自然をいつくしみ
こころ豊かに市民がつどい
オホーツクの文化を創造するまち・網走

網走市都市計画マスタープラン

網 走 市

目 次

序 章 計画の概要	1
第1章 網走の現況と課題	7
Ⅰ. 広域的な網走の現況	8
Ⅱ. 網走のまちの現況	10
Ⅲ. 網走のまちづくり上の課題	16
第2章 網走市都市計画マスタープラン全体構想	18
Ⅰ. テーマ別の市民の思い・願い	19
Ⅱ. まちづくりの理念と実現のための方針	22
Ⅲ. 市街地形成上の目標	29
第3章 網走市都市計画マスタープラン地域別構想	35
Ⅰ. 地域別構想の策定にあたって	36
Ⅱ. 「まちづくりの目標」との関連	38
Ⅲ. 地区別まちづくりの方針	39

序 章

計画の概要

I. 計画策定の背景と目的

昨今、わが国をとりまく社会・経済状況は大きな変革を遂げています。このなかで、急速な高齢化社会の進展や地球規模での環境保全の必要、社会のグローバル化、高度情報化などの新たな動きに対応したまちづくり・都市計画が求められています。

また、最近の大きな動きとして地方分権、アカウンタビリティ（説明責任）、公共事業の透明性と住民参加などを捉え、地方自ら主体性を持つとともに、住民とのパートナーシップの体制でまちづくりを進めていく必要があります。

網走市では、このような状況に対応していくため、この都市計画マスタープランを策定しました。今後の網走のまちづくりは、これを指針としながら住民との協働（コラボレーション）の視点で進めていきます。

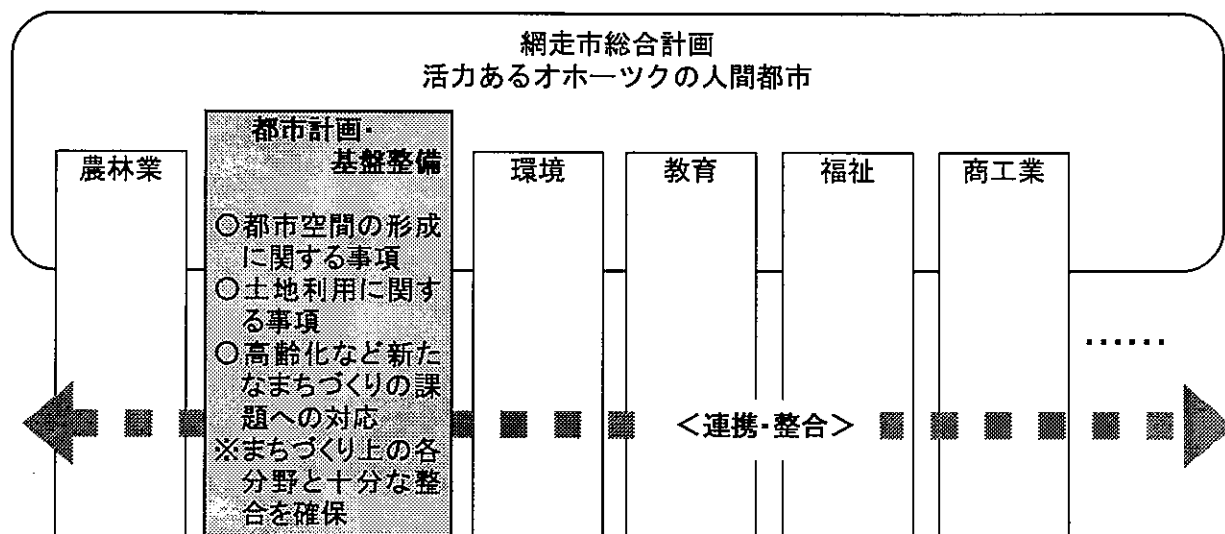
II. 都市計画マスタープランの位置づけ

「網走市都市計画マスタープラン」は、平成9年度に策定された「網走市総合計画」における、都市づくりに関する部門別計画として位置づけされます。

また、現在までに策定されている他分野に渡る網走市における既往計画と整合が図られたものです。

このほか、北海道における都市計画マスタープランをはじめとした都市計画の関連計画についても、十分に踏まえたものです。

以上のように、「網走市都市計画マスタープラン」は、上位計画・関連計画との整合に配慮した、網走市の将来像にもとづいた、都市計画の方針を示すものです。



Ⅲ. 計画期間と対象範囲

1. 計画の期間

「網走市都市計画マスタープラン」は概ね20年後を見据えた計画であり、計画期間は平成15年度（2003年）～平成34年度（2022年）とします。

網走市を取り巻く社会・経済情勢の変化などに対応し、計画に修正の必要が生じた場合は、柔軟な姿勢で、関連する計画との整合に配慮しつつ、計画の見直しを行っていきます。

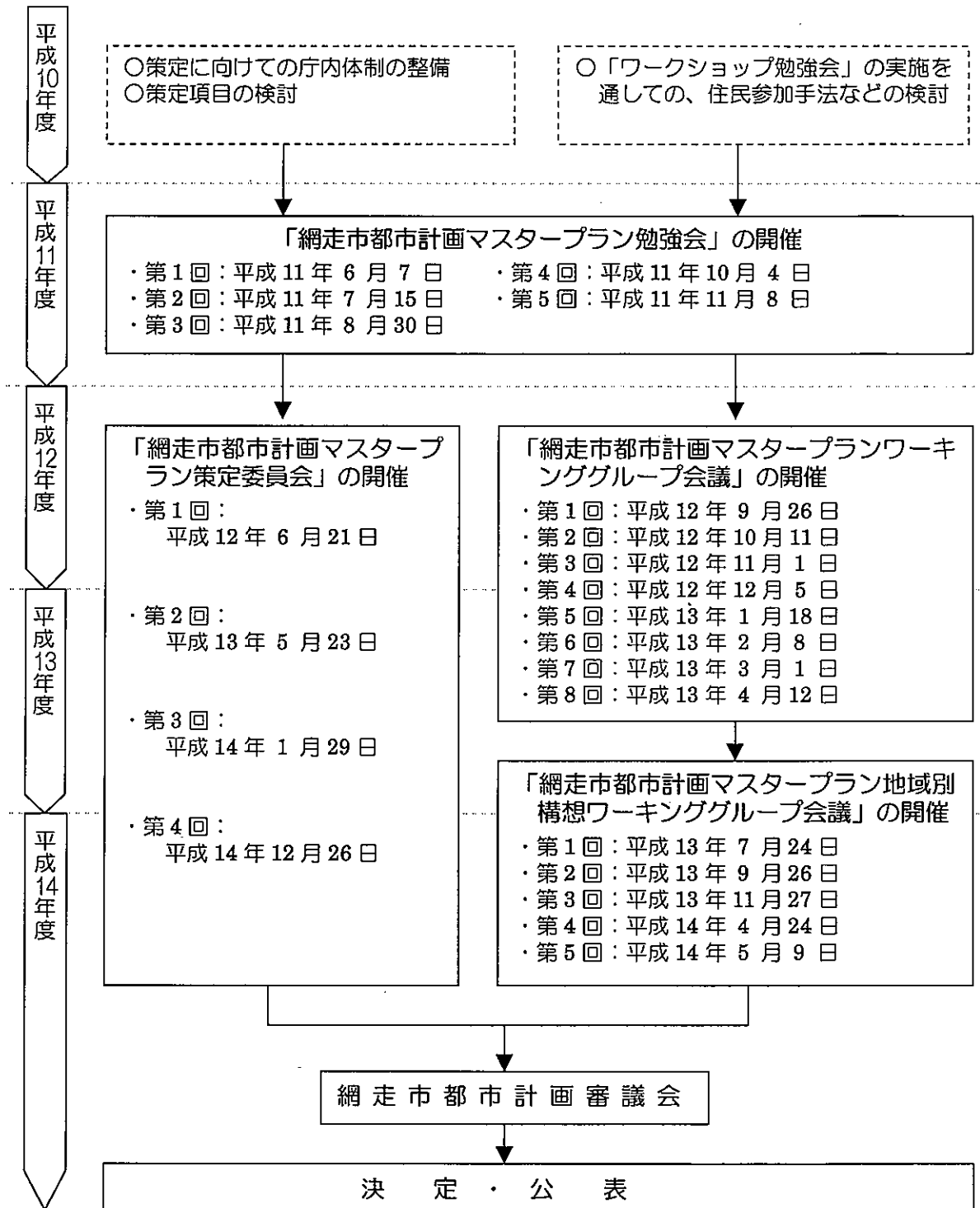
2. 計画の対象範囲

計画の対象範囲は、網走市の都市計画区域としますが、まちづくり上の総合的な視点において、整備・開発・保全が必要な区域を対象とします。

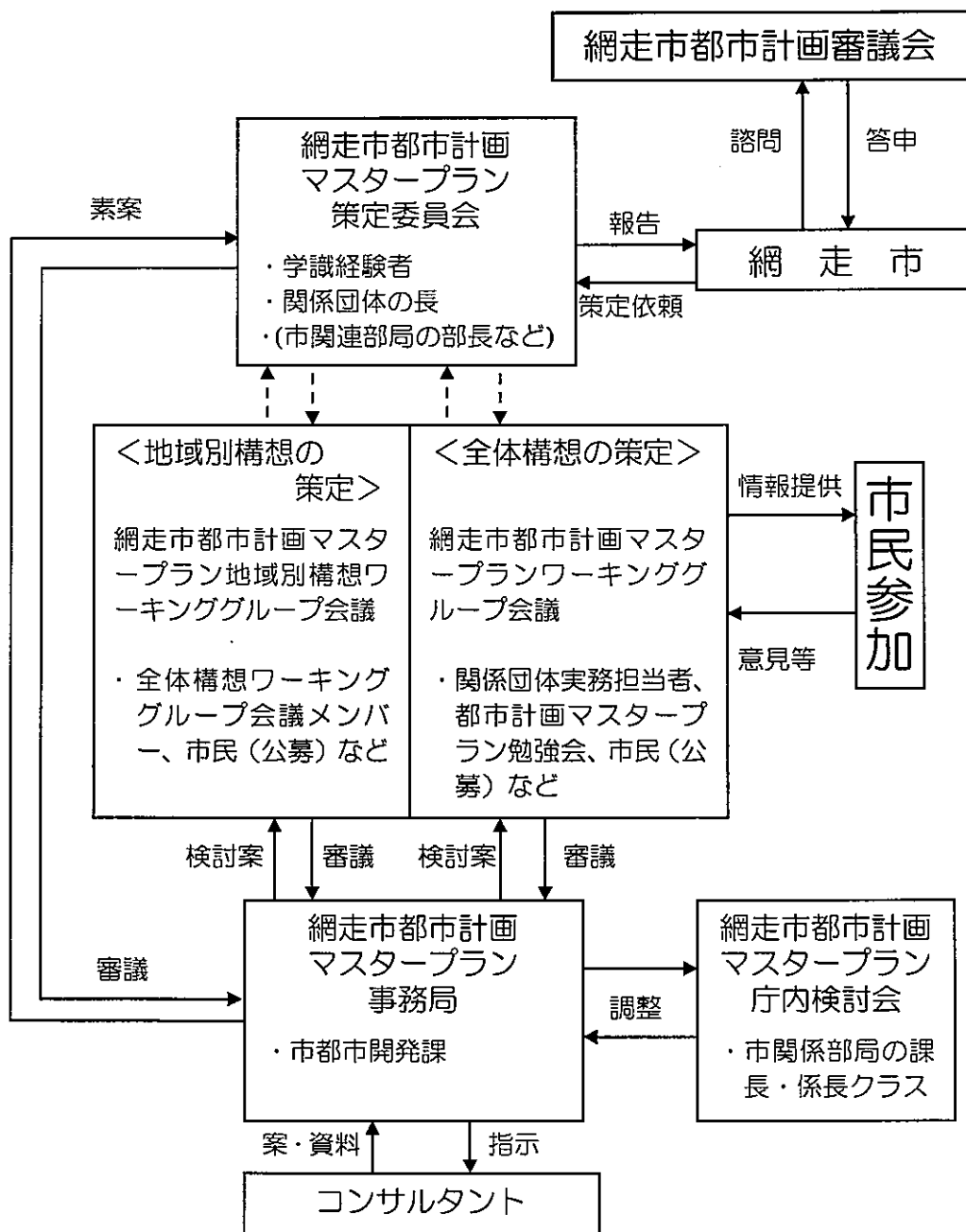
Ⅳ. 策定経過と策定体制

網走市都市計画マスタープランの策定は、次に示すような経過・体制のもとに進めました。

策定経過



策定体制



V. 計画の推進にむけて

1. 行政における推進体制

「網走市都市計画マスタープラン」に記載した取り組みについて、実行性の確保、円滑な取り組みにむけて、既存の庁内組織をもとにした庁内ネットワークの確立を図り、計画の進行管理を行っていきます。

また、国や北海道をはじめとした関連機関との調整・連携により、各々の所管事業の円滑な推進を促していきます。

2. 住民との協働

この都市計画マスタープランは、住民の皆様の参加のもとに策定を進めてきた計画ですが、昨今の厳しい財政状況や公共事業全般にわたる構造改革の状況などにより、全てのことがらについてすぐに実現していくことは困難であると考えられます。

しかし、自分たちのまちづくりを自ら行っていく、住民参加・住民との協働の視点で、少しずつではあっても着実に、各事業の実現に取り組んでいくことが重要であると考えられます。

以上のような基本姿勢のもと、『第2章 都市計画マスタープラン全体構想Ⅱ. まちづくりの理念と実現のための方針－2. 網走の将来像実現のための取り組み方針－(3) まちづくりを進める体制上の方針』において記載した事項を指針としながら、住民の皆様との協働の視点でまちづくりを推進していきます。

第 1 章

網走の現況と課題

I. 広域的な網走の現況

網走市を取り巻く交通ネットワークや周辺土地利用との関連を整理すると、以下のようになります。

1. 交通ネットワーク

・広域連携道路

北見・女満別空港方向と網走市を連絡し、広域連携の主軸となる国道 39 号があります。

将来的には、高規格幹線道路*の整備により、さらに道内主要都市との連携が強化されることとなります。

・地域連携道路

オホーツク圏の他地域と結ぶ圏内の連携軸として、常呂・紋別方面と連絡する国道 238 号、斜里方面と連絡する国道 244 号があります。

・鉄道

網走と北見方面および斜里方面とをそれぞれつなぐ JR 線があり、オホーツク圏と道内内陸部とを結ぶ重要な交流ルートとなっています。

・空路

網走市は、道内外の主要都市とを結ぶ定期便が就航している女満別空港に最も近接した、商業・業務などの都市的機能の集積地であることから、オホーツク圏における空のゲートシティとしての役割を担っています。

・港

網走港は、オホーツク海沿岸の流通拠点となる国際貿易港としての重要な役割を担うほか、オホーツク観光の広域交流拠点としても位置づけられます。

2. 川・湖との関連

網走の固有性の一つといえる、豊富な自然にふれあうことのできる身近な水辺のレクリエーションの場として、網走湖をはじめとする複数の湖がまちの周囲にあり、網走川が市街地の中を流れています。

3. 農業地域との関連

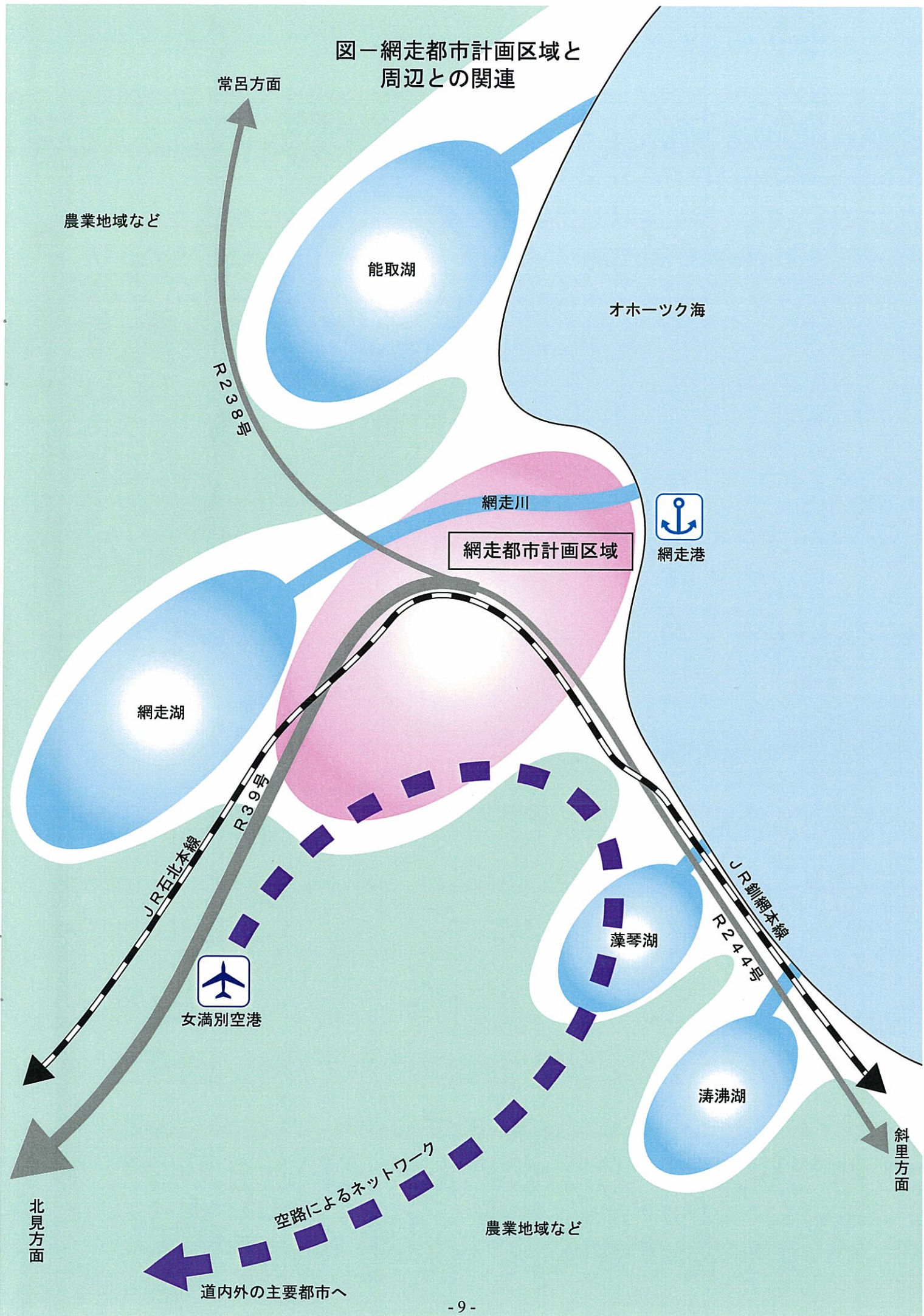
網走市の周囲に広がる農業地域は、生産の場としての機能を持つほか、景観的な観光資源ともなっており、また、自然とのふれあいの場として、都市生活者に対する「やすらぎ・癒し」を提供する場となっています。

4. オホーツク海との関連

かつては北方圏との交流の媒体となっていたオホーツク海は、現在は海上物流や流氷をはじめとする観光のフィールドとして、また、日常のレクリエーション空間として、川や湖とともにうるおいのある都市生活を支える場となっています。

*「高規格幹線道路」：自動車が高速で走行できる、全国的な自動車交通網を構成する自動車専用道路

図一 網走都市計画区域と
周辺との関連



Ⅱ. 網走のまちの現況

網走のまちの現況は、次のような事項にまとめられます。

1. 都市計画の状況

網走市の土地利用の指針となる用途地域*の指定状況をみると、商業系用途地域*はＪＲ駅から市役所にかけての中心市街地地区のほか、大曲地区や網走川北側の国道沿線、そして駒場・つくし地区の市道沿線で指定されています。

工業系用途地域*は、網走港から北部の海岸部や刑務所周辺など、市街地の外縁部に点在して指定されています。

また、住居系用途地域*は、全体の約 80%を占めており、近年は潮見地区において低層住宅の用途地域の指定が拡大しています。

2. 人口・世帯数の状況

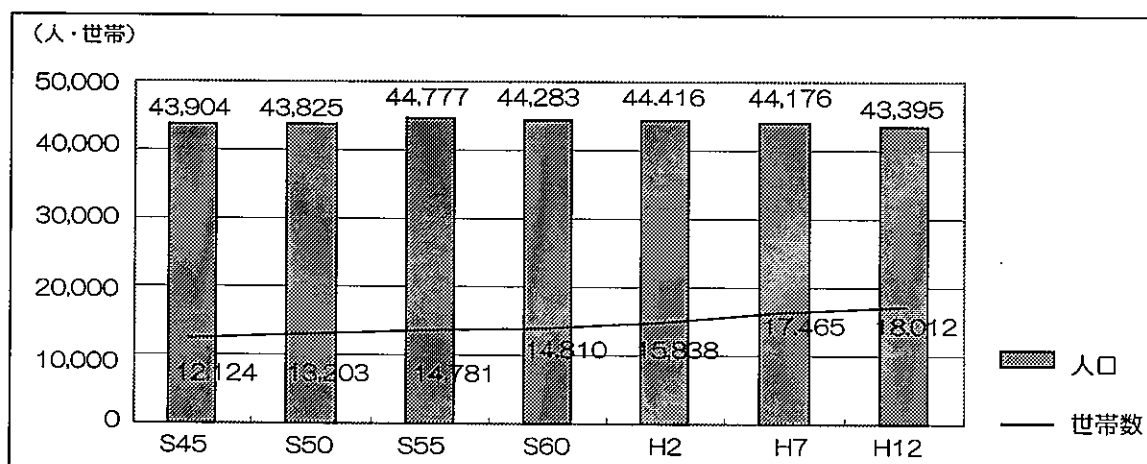
過去 30 年間の網走市の人口の推移をみると、ほぼ 4 万 4 千人程度で推移していますが、近年は微減傾向にあり、平成 12 年では、43,395 人（国勢調査数値）となっています。

一方、世帯数は、世帯の細分化に伴い増加傾向にあり、平成 12 年では、18,012 世帯（国勢調査数値）となっています。

人口の推移を地区別にみると、郊外に位置する駒場・潮見・向陽地区で比較的大きな人口の伸びが見られています。

また、人口に占める高齢者（65 歳以上）の割合は年々増加しており、平成 12 年では 16.9%と、北海道市部の平均とほぼ同率となっています。

網走市の総人口・世帯数の状況



* 「用途地域」：健全な市街地づくりを目的として土地利用を規制・誘導するために都市計画法にもとづいて指定されるもの。住居系、商業系、工業系合わせて 12 種類の地域区分があります。

「商業系用途地域」：用途地域のうち、主に商業施設や事務所等の立地を図る地域。

「工業系用途地域」：用途地域のうち、主に工業施設等の立地を図る地域。

「住居系用途地域」：用途地域のうち、主に住宅等の立地を図る地域。

3. 道路整備の状況

現在、紋別方面と結ぶ国道 238 号、知床方面と結ぶ国道 244 号、また、女満別空港、北見、旭川方面と結ぶ国道 39 号や道道といった広域幹線となる主要道路はほぼ整備済みです。

将来は、道央と接続する高規格幹線道路との結節について検討を行っているところです。

そのほかに今後は、市内中心部と南部の市街地を結ぶ道路などの市街地内の幹線道路整備を検討しています。

4. 公園分布の状況

都市計画上の公園の分布状況をみると、南部の市街地では大小の公園が近接しながら整備されていますが、中心市街地では特に人々に身近な小規模公園が少ない状況にあります。

また、ある程度まとまった大きさの公園は、南部地域で整備されています。

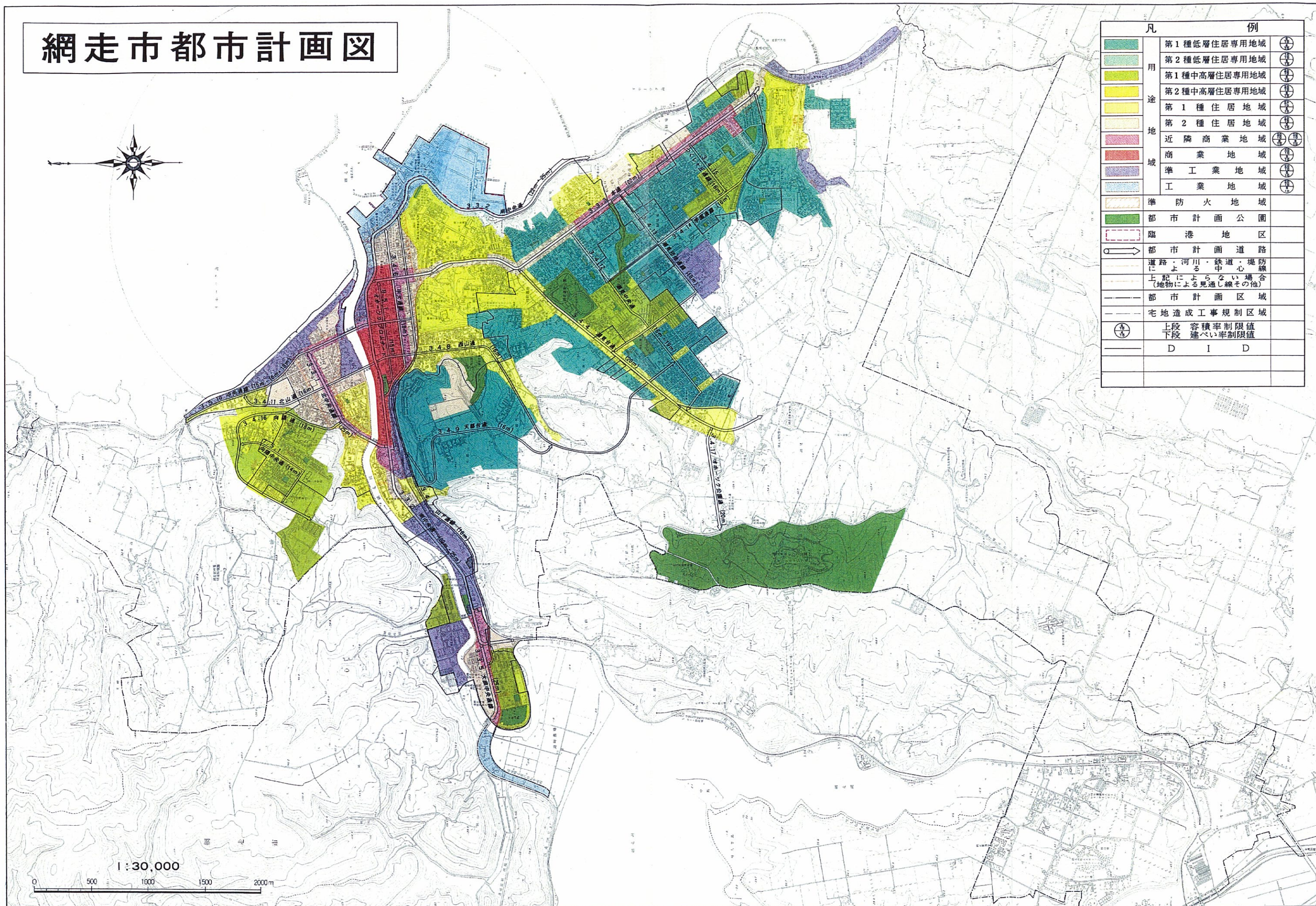
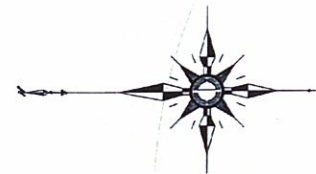
5. 下水道整備の状況

公共下水道の整備は、平成 12 年度末で、処理区域内*16,209 戸のうち、15,214 戸が水洗化となっており、下水道普及率は 93.4%と道内で高い状況にあります。

今後は、中心市街地周辺のほか、南部、北部の最も外縁にあたる区域の整備を進めます。

*「処理区域」：下水道による排水処理が可能な区域。

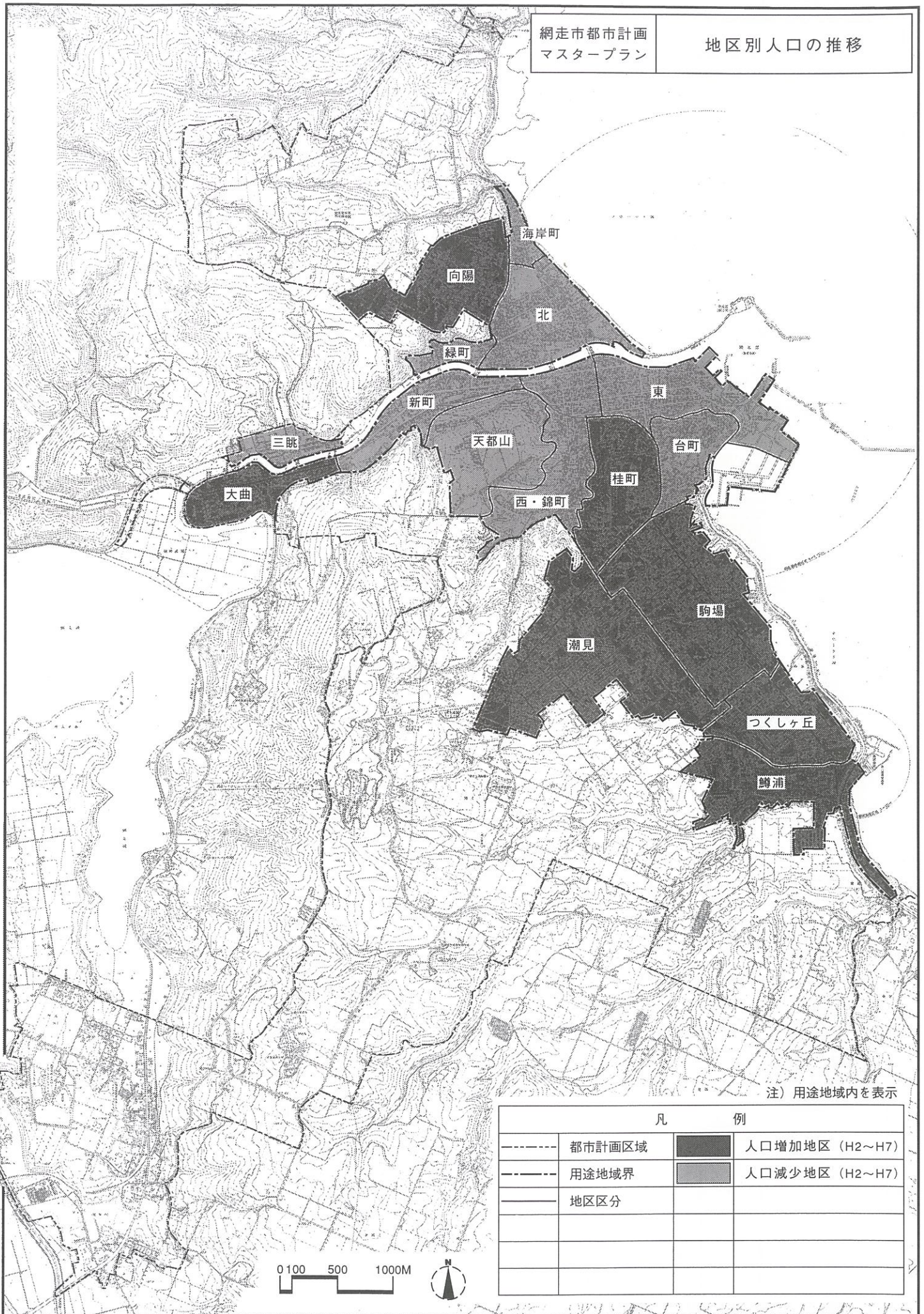
網走市都市計画図

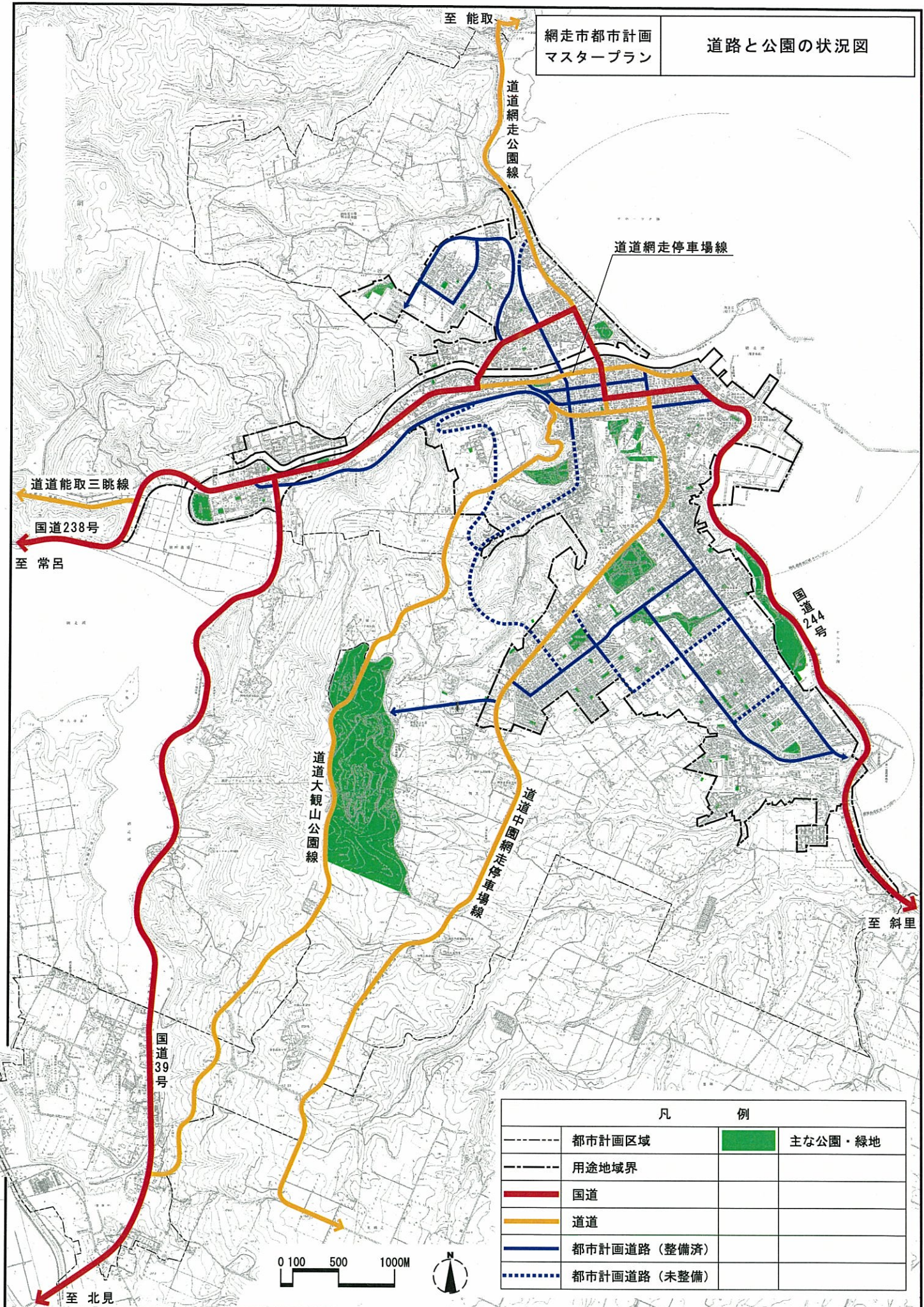


凡	例
第1種低層住居専用地域	(Symbol)
第2種低層住居専用地域	(Symbol)
第1種中高層住居専用地域	(Symbol)
第2種中高層住居専用地域	(Symbol)
第1種住居地域	(Symbol)
第2種住居地域	(Symbol)
近隣商業地域	(Symbol)
商業地域	(Symbol)
準工業地域	(Symbol)
工業地域	(Symbol)
準防火地域	(Symbol)
都市計画公園	(Symbol)
臨港地区	(Symbol)
都市計画道路	(Symbol)
道路・河川・鉄道・堤防による中心	(Symbol)
上記によらない場合(地物による見通し線その他)	(Symbol)
都市計画区域	(Symbol)
宅地造成工事規制区域	(Symbol)
上段容積率制限値	(Symbol)
下段容積率制限値	(Symbol)
D	I
D	

1 : 30,000

0 500 1000 1500 2000m

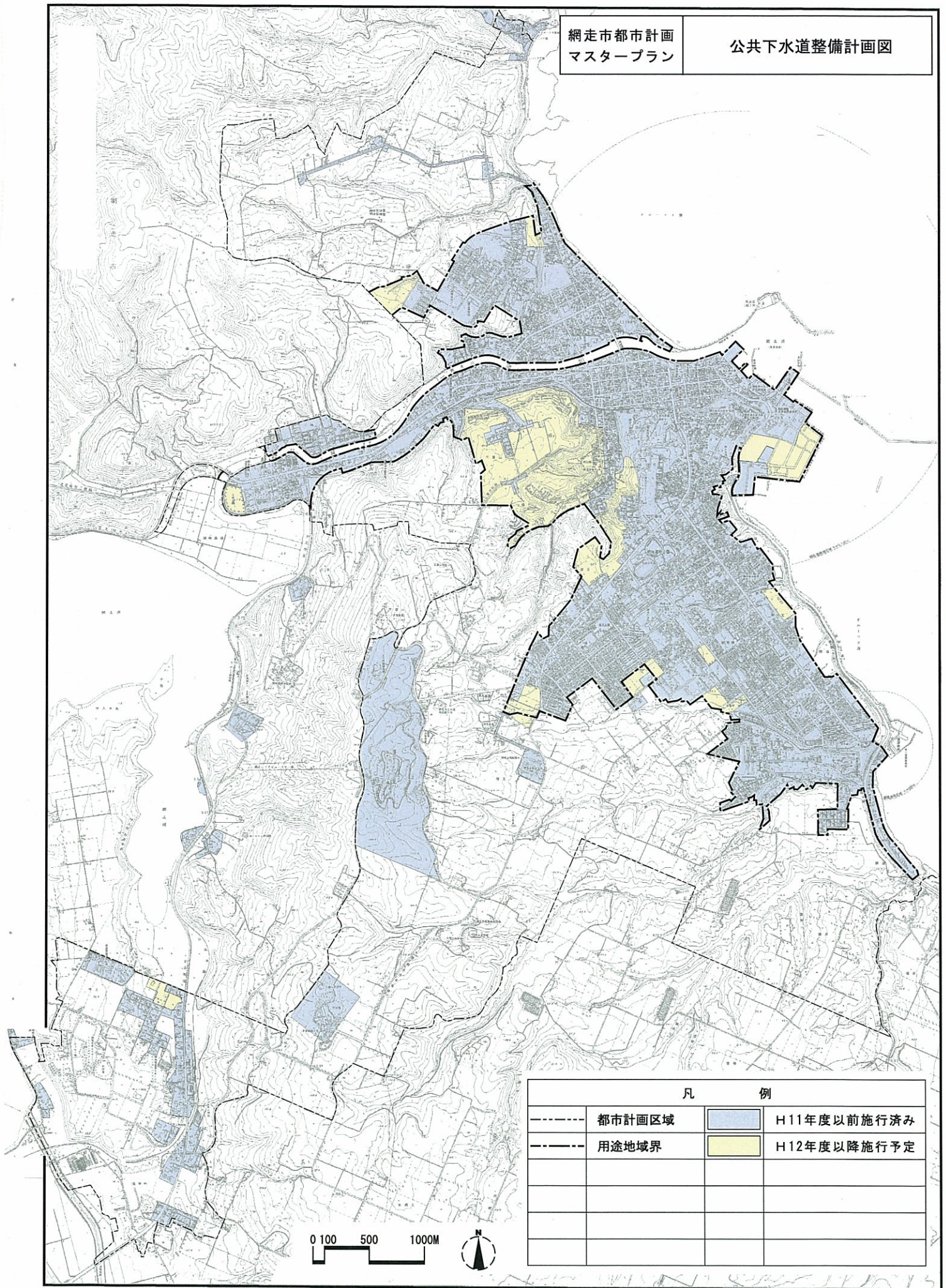




凡 例		
-----	都市計画区域	主な公園・緑地
-----	用途地域界	
-----	国道	
-----	道道	
-----	都市計画道路（整備済）	
-----	都市計画道路（未整備）	

0 100 500 1000M





凡 例	
-----	都市計画区域
- . - . - .	用途地域界
	H11年度以前施行済み
	H12年度以降施行予定

Ⅲ. 網走のまちづくり上の課題

網走のまちにおける現況を踏まえて、以下にまちづくり上の課題について整理します。

1. 均衡のとれた秩序ある土地利用の推進

網走市の健全な発展を促すため、都市計画区域においては整備・開発および保全の方針を明らかにしたうえで、都市全体としての均衡のとれた秩序ある土地利用を図っていく必要があります。

また、既に都市的土地利用が図られている用途地域内及び周辺においては、機能的・効率的かつ安全な都市の運営や快適な都市における活動を支えていく、生活・生産・商業業務などの土地利用についての適切な規制・誘導を行っていくことが必要になっています。

2. 自然環境の保全と調和

網走市都市計画区域は、周囲を海・湖や丘陵地のほか農地などに囲まれ、また、市街地中心部を網走川が流れているなど自然環境に非常に恵まれており、これが網走の特色の一つと考えられます。

このため、市街地の整備にあたっては、無秩序な市街地拡大を抑制し、農業においては、家畜糞尿も含めた適正な排水処理を図ることなどにより、網走の財産といえる自然を活かした観光拠点としての魅力を高め、さらに次世代へ継承していくための自然環境の保全を図ることが必要となっています。

3. オホーツク圏の中核を担う網走市中心市街地の活性化

網走市の総人口は4万4千人前後で推移してきましたが、近年微減傾向にあります。そのようなか、中心市街地及びその周辺では人口の郊外流出により、定住人口の減少が進行しています。

また、中心部商店街における商業販売額も近年減少しており、全市に占めるシェアも低下傾向にあるなど、中心市街地の活力の低下が懸念される状況にあります。

網走市の中心部は、オホーツク圏の行政・商業・業務などの中核を担っていくことが求められていることから、地区の持つ可能性を踏まえた適正な土地利用の推進による再編や、効果的な施策の展開により、活性化を図ることが必要となっています。

4. 高齢化社会への対応

網走市における65歳以上の高齢者比率は、平成12年で約16.9%とほぼ全道市部平均と同比率であり、今後ともその割合は増加する傾向にあります。

このため、都市基盤などの形成にあたっては、高齢者や障害者にも配慮した施設整備を行っていくことにあわせ、様々な都市活動の面においても、バリアフリー思想の幅広い普及が必要になっています。

5. 安全・快適な定住環境創出の必要

宅地所有形態別戸数では、網走市は全道平均と比較して持ち家の割合が低く、公営住宅の割合は高い状況にあります。

公営住宅については、現在、老朽化住宅の建替整備を順次行っていますが、まだ建替に未着手である団地が一部残されていることから、今後とも計画的な更新を進めていく必要があります。

一方、戸建住宅団地の宅地開発は、民間の開発行為が主体で進められてきており、特に近年は南部市街地方面に新規の宅地整備が進行しています。今後とも、うるおいある定住環境形成のため、生活道路をはじめとする良好な都市基盤整備に対する誘導を図っていく必要があります。

また、中心市街地の周辺においては、住工混在地区や接道不良地区も見られるため、これらの解消により、安全で快適な住環境を形成していくことも必要となっています。

6. 公園・緑地などのうるおい空間形成の必要

網走市における都市計画公園・緑地は、ほぼ整備済みですが、公園の誘致距離外である「公園未整備地区」も一部みられます。このため、地区バランスを考慮した公園の再配置についての検討とともに、整備済みの公園においても活用頻度や役割を考慮した総合的な公園再編に取り組む必要があります。

また、今後は、網走市のシンボルとなる網走川河畔や史跡・緑地などの保全・整備、自然を活かした新たな公園・緑地の整備、及び緑あふれる市街地形成の実現のために身近な緑の創出や植樹などを積極的に行っていくことが必要となっています。

7. 利便性の高い交通ネットワークの必要

道路については、周辺都市と網走市を結ぶ国道・道道が合計 12 路線整備されており、また、空路については近接する女満別空港を経由して道内外の主要都市と結ばれているなど、広域ネットワークは良好であるといえます。

今後は、産業発展に資する物流の円滑化などのため、既存の国道・道道に加えて高規格幹線道路や既存市街地への取り付け道路の整備を図り、広域としての道路ネットワークの強化を検討する必要があります。

一方、市街地内の都市計画道路については、北山通や西山通など一部未整備路線が見られるため、これらの整備促進を図るとともに、将来の市街地形態を視野に入れた都市計画道路の位置づけを検討する必要があります。

また、バスターミナルなど交通結節機能の将来的な役割の整理や、長期的視点に立った交通ネットワークの再編などについても検討することが必要となっています。

第2章

都市計画マスタープラン 全体構想

I. テーマ別の市民の思い・願い

将来の網走に対して、市民の皆さんが大切と思っていること、これからのまちづくりに欠かせないと考えていることをまとめると以下ようになります。

- ★：テーマ別意見の柱となる考え方
- ：都市計画・ハード整備に関わる意見
- ：ソフト面の取組み・意識改革に関わる意見

1. 将来の網走の土地利用

★保全すべき場所と開発すべき場所を明確にすべき！

□将来にわたって定住地としてふさわしい場所を検討し共有化したほうがよい

2. 今後の自然環境のあり方

★今後の網走の自然は‘保全’よりも‘再生’の考え方が重要！

□まちなかにもっと街路樹を

□海・湖・川の水質改善にむけた家畜糞尿処理対策のためには、上流部のまちとの協力体制づくりが重要である

□自然をもっと身近なものにしたい。今は海で泳げない

○網走の自然の素晴らしさに対する認識が低い

3. 中心市街地の活性化のために

★交流の場の創出を！

★歩いて楽しい中心部にしよう！

★まちなかの魅力を評価しよう！

○お祭り（花見、流氷祭など）を昔のように中心部で行うと、にぎわうのではないかな

□商店などの建物の色やデザインを統一してはどうか

○店のデザインよりも魅力ある商品を用意することが何より大切

□駐車スペースを確保して、4条通りから車を排除することが必要

□町の歴史に触れられる散策路をつくれないかな

□網走川には歴史性を高める仕掛けづくりが必要ではないかな

□高齢者のまちなか居住を進めよう

□観光客などの来訪者に歩いてもらう仕掛けづくりが必要である

○文化を取り入れた特産品づくりが必要である

□中心部には若者や高齢者などが休める・集える場所（喫茶店など）が欲しい

4. 高齢化社会にむけて

★ハード・ソフト両面でのバリアフリーの考え方を広めよう！

□スーパーマーケットが郊外に集まっていて買物が不便だと思う

□バリアフリー思想の共有化はとても重要だと思う

○高齢者などが社会に貢献できるシステム（働ける場など）づくりが必要ではないか

□住宅地の中など、高齢者などが利用しやすい場所、ボランティアが活動しやすい場所に福祉施設を配置して欲しい

5. 快適な住環境の創出にむけて

★定住を進めるために住環境を大切にしよう！

□住宅地内に緑を増やすべき

○「緑を増やしたい」 $\longleftrightarrow$ 「落ち葉は汚い」

→価値観の共有化が必要になる

□住宅地内での公園・緑地の確保にあたって、十分な面積を確保するための規制が必要ではないか

□高齢者などの利便性に配慮した施設整備が必要ではないか

□生活環境におけるバリアフリー化が大切である

□車を持たない人にも便利なまちにしていけるべき

○就職先が少ないため、若者が定住しづらい

6. 憩い・交流の場のづくり方

★自然や歴史を活かして集まれる場をつくろう！

□まちなかに自然景観を楽しみながらのんびり休める場所が欲しい

□若者が集える所がない

□網走川にまちの歴史を感じさせる取り組みが必要ではないか

□既存のまちなかの公園で昔のようにお祭りをして欲しい

□歩きながらまちの歴史を知ることのできる小路をつくりたい

7. これからの道づくり

★市内外との交流都市づくりにむけて連携を支える都市基盤を整備しよう！

□自転車を利用しやすいまちづくりを進められないだろうか（電線の地中化など）

□高規格幹線道路の将来の役割を明確にする必要がある

□網走は車がないと不便なまちだと思う

□交流や情報受発信を促すための広い意味での「道」づくりが必要だと思う

8. まちの魅力について

★網走らしさを共有化しよう！

○文化を取り込むことが大切である

○住んでいる者の多くが、網走の魅力を理解していない

□‘網走の色’を共有化することが必要ではないか。施設などの色の統一を図ることは良い

□まちづくりの上での刑務所の役割を考える必要があるのではないか

9. 人づくりの大切さ

★‘まちづくり’は、‘人づくり’から！

○若者中心で活動している各種の小グループの取り組みを結びつけば、お金のかからない効率的なまちづくりを行えるのではないか

○網走の人はまちの良いところを活かす意識を持つべき

○来訪者をもてなすコミュニケーションのあり方を考える必要がある

以上より、市民の皆さんが抱く網走市の将来イメージは、以下のような項目にまとめられます。

★住んでいる人のためのまち

- ・市民が豊かさを実感できるまちづくり
- ・将来の子供の生活をイメージするまちづくり

★自然を守り、育てるまち

- ・水と緑に恵まれた環境を再生するまちづくり

★人と人の交流があふれるまち

- ・市民同士のつながりを深めるまちづくり
- ・来訪者をもてなすまちづくり
- ・人々をひきつける魅力あふれるまちづくり

★文化を大切にするまち

- ・川とともに歩んできた歴史を活かしたまちづくり
- ・オホーツクの文化をとりいれたまちづくり

Ⅱ. まちづくりの理念と実現のための方針

1. まちづくりの理念

海、川、湖や緑があふれ、四季を通じて魅力あるオホーツクの生活を大切に、個性ある豊かな環境を育んでいくことを、網走で暮らす者の共通の心得とすることを目指し、将来にわたるまちづくりの理念を

『自然をいつくしみ、心豊かに市民がつどい、
オホーツクの文化を創造するまち・網走』
とします。

網走のこれからのまちづくりを進めるにあたって、生活に誇りを持ち、人々が支え合い、そして、自然とともにある暮らしを大切にしていくなちの実現にむけた3つの目標を掲げます。

●豊かさを実感できるまち

ーオホーツクの資源を享受でき市民が誇りの持てるまちづくりー

●人と人の交流があふれるまち

ー人のふれあい、こころの輪を育むまちづくりー

●自然を守り、育てるまち

ー水と緑に恵まれた環境を「再生」するまちづくりー

～網走市都市計画マスタープランの骨子～

まちづくり上の課題

1. 均衡のとれた秩序ある土地利用の推進
2. 自然環境の保全と調和
3. オホーツク圏の中核を担う網走市中心市街地の活性化
4. 高齢化社会への対応
5. 安全・快適な定住環境創出の必要
6. 公園・緑地などのよい空間形成の必要
7. 利便性の高い交通ネットワークの必要

市民の思い・願い

- ★住んでいる人のためのまち
- ★自然を守り、育てるまち
- ★人と人との交流がふれるまち
- ★文化を大切にするまち

網走市都市計画マスタープランの理念

自然をいつくしみ、心豊かに市民がつどい、オホーツクの文化を創造するまち・網走

まちづくりの3つの目標

豊かさを実感できるまち

—オホーツクの資源を享受でき市民が誇りの持てるまちづくり—

人と人の交流がふれるまち

—人のふれあい、こころの輪を育むまちづくり—

自然を守り、育てるまち

—水と緑に恵まれた環境を「再生」するまちづくり—

目標実現のための主要要素

●暮らし

- ・ゆとりある住宅地
- ・緑あふれる生活環境
- ・活力を生む地区コミュニティ
- ・地域の資源を楽しみ、活用する生活
- ・知恵と工夫による快適な環境

●社会基盤

- ・だれもが自由に活動できる社会環境
- ・1人1人の夢を実現できる地域環境
- ・高齢者などが生きがいを持てるまち
- ・子ども達の可能性を応援する社会の仕組み

●中心市街地

- ・ここにしかない面白さ、ここからできる遊び
- ・網走の活力があふれる拠点
- ・若者が楽しめる魅力
- ・川を活かした中心市街地の魅力
- ・期待がふくらむイベント・祭り
- ・にぎわいを楽しみ、のんびり休める憩いの場

●歴史・文化

- ・自然や食材・地場産物が豊富なオホーツク文化
- ・川とともに育ったまち
- ・先住民族（モヨロ人、アイヌ人）の暮らしの知恵

●観光

- ・非日常を満喫
- ・自然がもてなすまち
- ・オホーツク流氷観光
- ・冒険・体験の遊びポイント
- ・網走を体感し、人と交流「感交」できるまち

市民の誇り「網走らしさ」

- ・海、川、湖、緑と身近な暮らし
- ・オホーツクの拠点として充実した都市機能を活かすまち
- ・情報に不自由しない地方都市の暮らし
- ・網走・オホーツクの歴史と文化を伝え続けるまち
- ・空間、時間にゆとりある暮らし
- ・「不便」を「快適」へと工夫するまち
- ・無駄をつくらぬまち

将来像実現のための取り組み方針

～土地利用上のルールづくり～

- ・将来にわたる市街地範囲の設定
- ・機能に応じた効率的な土地利用の推進
- ・緑あふれる市街地整備の推進
- ・自然の保全・再生、自然とふれあえる環境づくりによる網走の魅力向上

～都市基盤整備上の方針づくり～

- ・高規格幹線道路及び地区間連携道路の整備推進
- ・美しい景観・街並み形成に配慮した市街地整備の推進
- ・地域・地区の機能性向上に向けた利便性の高い各種施設の整備推進
- ・安全性・防災性に配慮した、人々の自由な活動を支える市街地整備の推進

～目標実現のための体制づくり（人づくり）～

- ・行政と市民が協働する検討組織の継続的な設置
- ・まちづくりに関わる情報を市民が自由に入手し、要望等を伝えられる手段の確立
- ・市民参加によるまちづくりを進める機会の設定
- ・高齢者、障害者や子供たちの要望・アイデアを把握する機会の設定
- ・市民の自主的なまちづくり活動に対する行政からの支援
- ・まちづくりの考え方などの子供たちへの伝達

市街地形成上の目標

土地利用・拠点・ネットワーク
形成上の目標

自然・緑地空間形成上の目標

地域別構想（北部 中心市街地・中心市街地周辺 西部 南部 呼入）

2. 網走の将来像実現のための取り組み方針

(1) 土地利用の方針

○将来にわたる市街地の範囲を設定します。

将来の人口規模を踏まえて、将来にわたる市街地の概ねの範囲を明確にし、機能性の高いコンパクトなまちづくりを目指します。

市街地内に点在する空地などの未利用地において周辺環境に調和した活用促進に努め、地域の役割に応じて利便性が高く充実した生活機能を備えた市街地環境の創出を図ります。

将来にわたる市街地範囲について、市民全体で共通認識を持つことによって、周囲を取り巻く水や緑の自然環境の効果的な保全及び再生を図っていきます。

また、用途地域外において、既に相当数の住宅の立地など都市的土地利用が進行している地域（呼人など）については、適切な土地利用推進のための、規制・誘導策について検討を進めます。

併せて、個性ある生活志向の高まりや新たな広域交通ネットワークの形成などへの対応にむけて、社会ニーズを踏まえた新規の都市的土地利用についても柔軟に対応します。

○機能に応じた効率的な土地利用を進めます。

住宅系の市街地においては、良好な住環境を備えたコミュニティ性の高い住宅地整備を進めます。

商業施設の集積がみられる地区（主に中心市街地、南部地区本通沿道、大曲地区）は、地区住民及び広域からの来訪者の購買活動を支え、地域の顔となっている役割を踏まえ、多様な業種の集積などにより効果的な商業機能の向上に努めます。

生産施設などの立地による工業系エリアの形成にあたっては、円滑な産業活動や物流活動の促進及び景観形成や環境保全への配慮を踏まえながら、工業関連施設の集約化や新たな企業誘致及び参入可能な工業系業態の制限などにより、効率性や安全性に配慮した工業系土地利用を図ります。

特に網走港においては、産業・物流機能の強化と、周辺部の良好な生活環境の確保にむけて、現状に即した臨港地区の見直しなど、都市的土地利用と港湾系土地利用の明確な区分を行いながら、適切な土地利用の推進に努めます。

また、無秩序な市街地の拡大防止や自然環境保全の観点より、白地地域においては各々の土地利用実態や開発動向を把握しながら、適切な形態規制（建ぺい率など）を行います。

そのほか、市民生活や市街地形成の上で密接した関係にあるゴミ処理場や墓地の位置付けについては、現在の場所での継続利用を基本とし、今後は環境保全や周辺環境との調和に配慮した環境整備に努めます。特にゴミ処理場に関しては、環境に配慮した継続的な施設利用にむけて、日常生活での対応を含めたゴミや廃棄物処理に対するルールの共有化についても取り組みます。

○緑あふれる市街地整備の推進に努めます。

周囲を取り巻く森林空間や市街地を流れる網走川との調和と連携に努め、市街地内での緑地空間の確保により、自然と親しめる生活を実感できる土地利用を図ります。

特に、ゆとりある生活空間づくりが可能である郊外の住宅地整備にあたっては、住宅地を取り巻く緑地空間の確保をめざし、計画的で良質な住宅市街地の形成を図ります。

○自然の保全・再生及び自然とふれあえる環境づくりによる網走の魅力向上に努めます。

将来にわたって人の手を加えない自然の領域と今後自然の姿に戻していくべき領域を明確にし、可能な限り自然に悪影響のない周辺土地利用を図り、自然再生にむけた整備の推進に努めます。

また、自然を守り自然を享受する暮らしの実現にむけて、自然と調和した生活を実践する環境共生*型集落の形成や自然環境教育の拠点として自然の豊かさや魅力を満喫できる自然体感空間の創出を図ります。

*「環境共生」：生産活動などの各種活動や日常生活において、環境に悪影響を与える物質の発生を抑えたり、資源の有効活用を図るなど、地球環境の保全を目的とした仕組みを取り入れること。

(2) 都市基盤整備上の方針

○広域都市間連携の強化にむけた高規格幹線道路整備及び円滑な地区間連携を支える道路整備を推進します。

網走の産業を支える農業・漁業生産物の物流円滑化や網走港を起点とするオホーツクの物流拠点としての機能性の向上及び災害時などにおける避難路・広域連携ルートの確保にむけて、市街地整備と整合した高規格幹線道路の整備を図ります。

さらに、市民の日常生活の利便性向上や市民活動及びコミュニティ形成の促進、災害等緊急時の支援手段の確保などにむけて、地区間の移動を円滑にする連携道路の整備を進めます。

○美しい景観・街並み形成に配慮した市街地整備に努めます。

幹線道路沿いや新たに形成される市街地整備にあたっては、緑化に努めるとともに、自然との調和や共通テーマに基づく建物デザインの導入、宅地整備上のルールづくりなどにより、市全体として統一感と個性を備えた美しい景観形成に努めます。

住宅地や商業地において人々の憩いの場となる緑豊かな公園・緑地を確保し、さらにこれらを結ぶ歩いて楽しい歩行者のための道づくりを進めます。

○地域・地区の役割を踏まえ、その機能性向上にむけた利便性の高い各種施設の整備を図ります。

駅やバスターミナルなどの交通結節点や商業機能及び集会施設や公園などとの連携に配慮し、民間施設も含めた利便性の高い各種公共公益施設の整備・管理及び誘致に努めます。

居住拠点、商業業務拠点、広域交流拠点など、それぞれの地区が担う都市機能を市民が有効に活用できるようにするために、各地域・地区に既に備わっているさまざまな施設の機能向上を図り、その利用促進に努めます。

○日常生活上の安全性確保や都市防災に配慮しながら、人々の自由な活動を支える市街地整備を進めます。

高齢者や障害者においても不自由のない日常生活を支えるために、バリアフリーを基本とした市街地整備や日常生活の利便性向上に努め、特に市民交流の拠点となる中心市街地において先導的な展開を図ります。

災害時における周辺都市との連携強化、市民活動やコミュニティ形成の促進を図るため、高度な情報受発信手段を確保し、集客施設・交流拠点における情報受発信機能の向上に努めます。

(3) まちづくりを進める体制上の方針

- 行政と市民が常に協働してまちづくりを進めるために、その目標や協力体制などについて協議できる場を設置します。
- 施設整備や道路・公園整備などまちづくりに関わる行政からの情報を市民が自由に入手でき、意見・要望を伝えられる手段を確立します。
- 公園や公共施設整備の計画づくりあるいは河川的环境改善活動など、市民参加によるまちづくりを行える機会を設けるよう努めます。
- 幅広い視点を踏まえた効果的なまちづくりを進めるために、各種の市街地整備の検討にあたって高齢者・障害者や子供たちの要望、アイデアを把握する機会を設けます。
- 市民自らの発案・取り組みによるまちづくり活動に対し、行政からも積極的に支援し、即効性と実効性のあるまちづくりを進めます。
- 自然との関わり方や人々との交流のあり方、生活のルールなど将来にわたる網走のまちづくりの考え方について、子供たちへ伝えていくことに努めます。

Ⅲ. 市街地形成上の目標

1. 土地利用・拠点・ネットワーク形成の目標

(1) 市街地の拡大がみられる南部地区の将来市街地範囲の設定

道路・公園など都市基盤の効率的・経済的な整備と利便性の高い市街地中心部での定住化の促進にむけて、将来にわたる概ねの市街地範囲の設定を行います。

具体的には、今後も住宅地の拡大が想定される潮見及び鱒浦を中心とするエリアでの設定が必要となっています。この設定にあたっては、開発業者などとの間で居住する場所として適正な環境にある領域についての認識の共有化を図り、市街地の無秩序な拡大の抑制と自然環境の保全に努めます。

(2) 地区特性に応じた居住拠点の形成

利便性と快適性を実感できる暮らしを実現させるために、各地区の市街地環境を踏まえて多様な居住ニーズに対応可能な住環境整備を図ります。

なかでも、南部地区と北部地区における新興住宅地においては、敷地にゆとりある住宅地、身近な緑があふれる空間の確保、車と人が共に安心して利用できる道づくりなど、ゆとりとやすらぎを実感できる拠点エリアとしての整備を進めます。

また、中心市街地では、鉄道やバスなどの交通起点や市の中心的な交流施設さらに商業施設や医療機関などが集積している利便性の高さを再認識し、にぎわいとふれあいを楽しめる生活の場としてまちなかでの居住誘導を図ります。

(3) 都心市街地におけるにぎわい・交流拠点としての機能の向上

商業・業務機能の集積や交流・集会施設の立地がみられる中心市街地では、人と人との交流によりまちの活力を生み出す中心地として再認識し、その拠点性を高める取り組みを進めます。

機能の向上にあたっては、交流・集客施設と連携した商業地活性化の展開や網走の歴史・文化の情報発信拠点の整備、さらに多様な人々の自由な交流を促すバリアフリー化の重点的な推進を図ります。

また、来訪者をもてなす網走の顔としての中心的な役割を担う地区であることを踏まえ、街並みや景観整備の重点的な取り組み、商店街の魅力向上への支援などに努めます。

(4) 港湾部における産業活動中心エリアとしての拠点性の向上

まちの産業を支える漁業、工業、物流活動の円滑で効率的な展開にむけて、広域アクセスとの連携や周辺環境との調和に配慮した機能性の高い産業拠点を形成します。

網走における産業拠点形成にあたっては、将来における広域高速アクセス整備との連携を踏まえながら、網走港において漁業・物流基地としての機能集約や関連施設の移設などにより、産業系土地利用の促進を図ります。

(5) 高規格幹線道路及び中心市街地と北部地区、南部地区を結ぶ連絡道路の整備

物流、広域防災、観光などさまざまな面における利便性や安全性の向上及び周辺都市との連携強化にむけて、道央方面と接続する新たな広域連携軸となる高規格幹線道路整備を図ります。

さらに、今後も居住者の拡大が見込まれる南部市街地や北部市街地などと多様な機能を備える中心市街地を結ぶ、地区間及び地区内を連絡する道路整備を進めます。

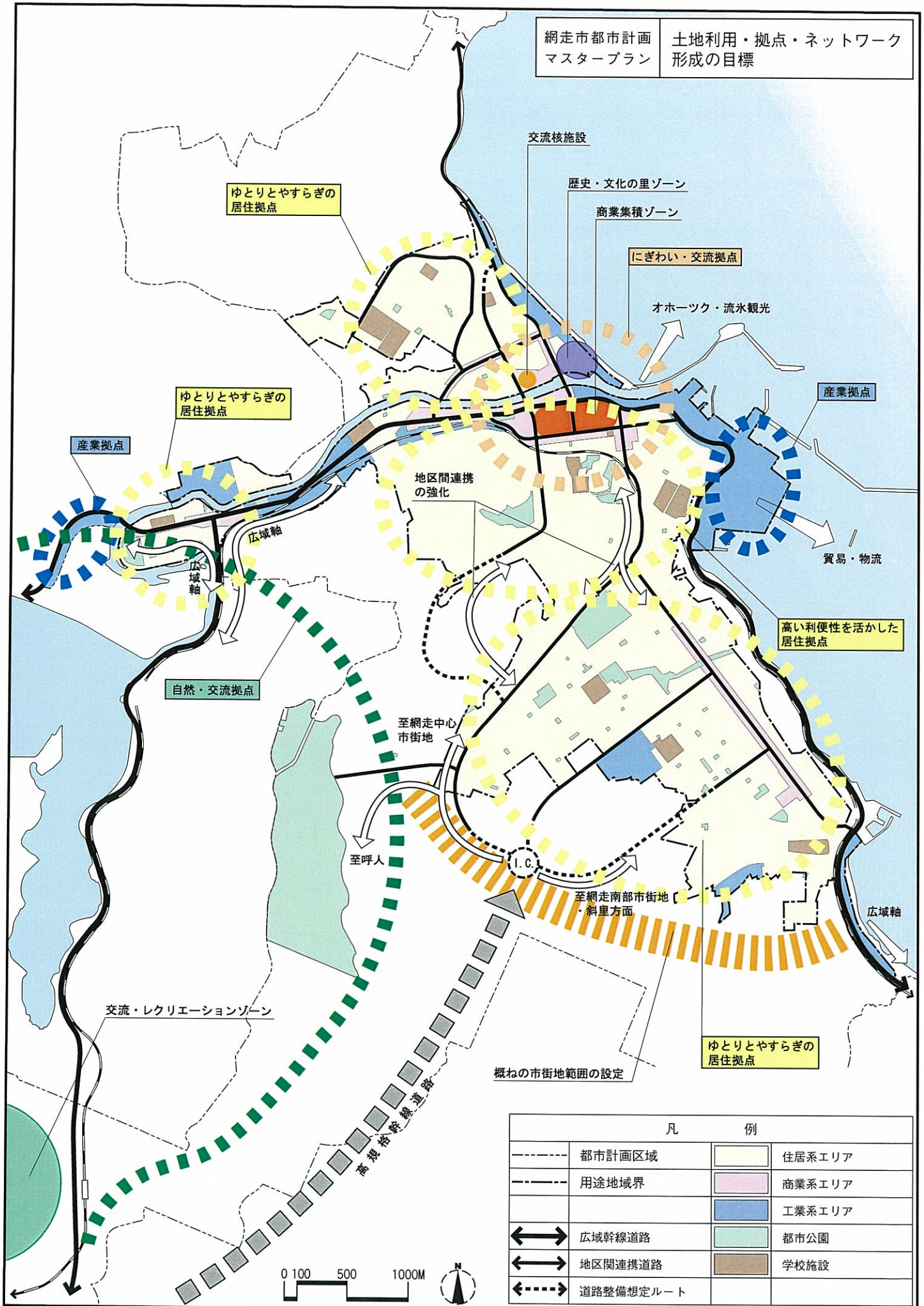
(6) 市街地西部エリアでの重点的な自然環境の保全を目指す拠点の形成

網走湖と湖周辺の森林、丘陵地、オホーツク公園などの豊かな自然が都市に近接して備わっている環境をまちの誇りとし、これらを将来にわたる環境保全にむけた重点エリアとして市民全体での認識の共有化に努めます。

また、これらを人々の遊び場、安らぎの空間として有効に利用することとし、水と親しみ緑とふれあえる環境づくりも併せて進めます。

網走市都市計画
マスタープラン

土地利用・拠点・ネットワーク
形成の目標



2. 自然・緑地空間形成の目標

(1) 市街地を取り巻くグリーンベルト形成の考え方の共有化

将来にわたる概ねの市街地範囲の設定に伴い、市街地を取り巻く一帯において、自然と身近な暮らしの象徴として森林環境の保全を前提とするグリーンベルトの形成を図ることとし、その考え方の共有化に努めます。

また、海岸部からの風害の解消や市街地環境に調和した緑地空間の確保にむけて、南部市街地海岸部に形成されている保安林の適切な維持・管理に努めます。

(2) 重点エリアにおける住宅市街地の緑化の推進

緑を大切にし、緑があふれる生活を誇りに思える網走の暮らしを実現するために、住宅地に近接する適正な公園、緑地空間の確保に努めます。

特に、潮見・鱒浦や向陽ヶ丘を中心とする新興住宅地では重点的に緑化を進める住宅地として位置づけ、住宅敷地内や一定街区単位での緑地スペースの確保や統一イメージに基づく街並み形成などを基本とする誘導指針及びまちづくり協定の策定などによる計画的な住環境整備を検討します。

(3) 景観や安全性及び公園空間の利用促進に配慮した緑のネットワークの形成

うるおいある生活を支える市街地環境の創出にむけて、歩く者の視点に立ち花や緑が豊かで快適な歩行者空間の確保に努め、さらに、幹線道路沿道においては景観形成の観点による植樹の普及・推進を図りその適切な維持・管理に努めます。

また、住宅市街地においては、既存の公園・緑地空間の利用促進にむけて、子供から高齢者までが気軽に安心して利用できるよう公園・緑地を相互に結ぶ歩行者空間整備を進めるとともに、今後の公園・緑地整備においても歩行者ネットワークとの連携に配慮し、有効利用が図られる空間づくりを目指します。

(4) 恵まれた環境を生かした新たな自然体験・生活空間の形成

網走の誇りである海や山とのより積極的なふれあいや、自然の大切さを知り自然の力を活用した生活ができる場の形成にむけて、北部市街地の明治地区において地域資源を生かした自然体験空間を形成します。

ここでは、美しい眺望を生かしさらに周囲の森林空間との調和に配慮しながら、自然と親しめる憩い空間としての魅力向上に努めるほか、太陽光・熱、風力などの自然エネルギーの活用など環境共生型の生活を行えるエコビレッジ*の形成についても検討します。

(5) 網走川を軸とする自然環境を取り入れた市街地の環境改善

市街地内を流れる網走川を人々の生活とまちの周囲を取り巻く自然とをつなぐ連携軸ととらえ、その豊かな水・緑空間と市街地環境との調和に努めることとし、常に自然とともにある網走の暮らしを実感できる市街地整備を進めます。

特に中心市街地においては公園・緑地空間が少ない現状を踏まえ、人々が集い、にぎわいあふれる場としての魅力ある環境づくりにむけて、商業施設や公益施設などに近接した利用しやすい小規模公園空間の適切な配置を図ります。

*「エコビレッジ」：太陽エネルギーや風力などを利用した発電・冷暖房システムや、物の消費、排出にあたってそれらの再利用可能とする処理システムなど、環境への負担が少ないシステムを導入した社会基盤の整備によって形成された住宅群。

網走らしさを満喫でき、周囲の
自然環境と調和した新たな交流
・憩い空間の形成を図ります。
(明治地区)

中心市街地区において、より
きめ細かな小規模公園の確保
と緑のネットワークの形成に
よりまちなかのうおい向上
を目指します。

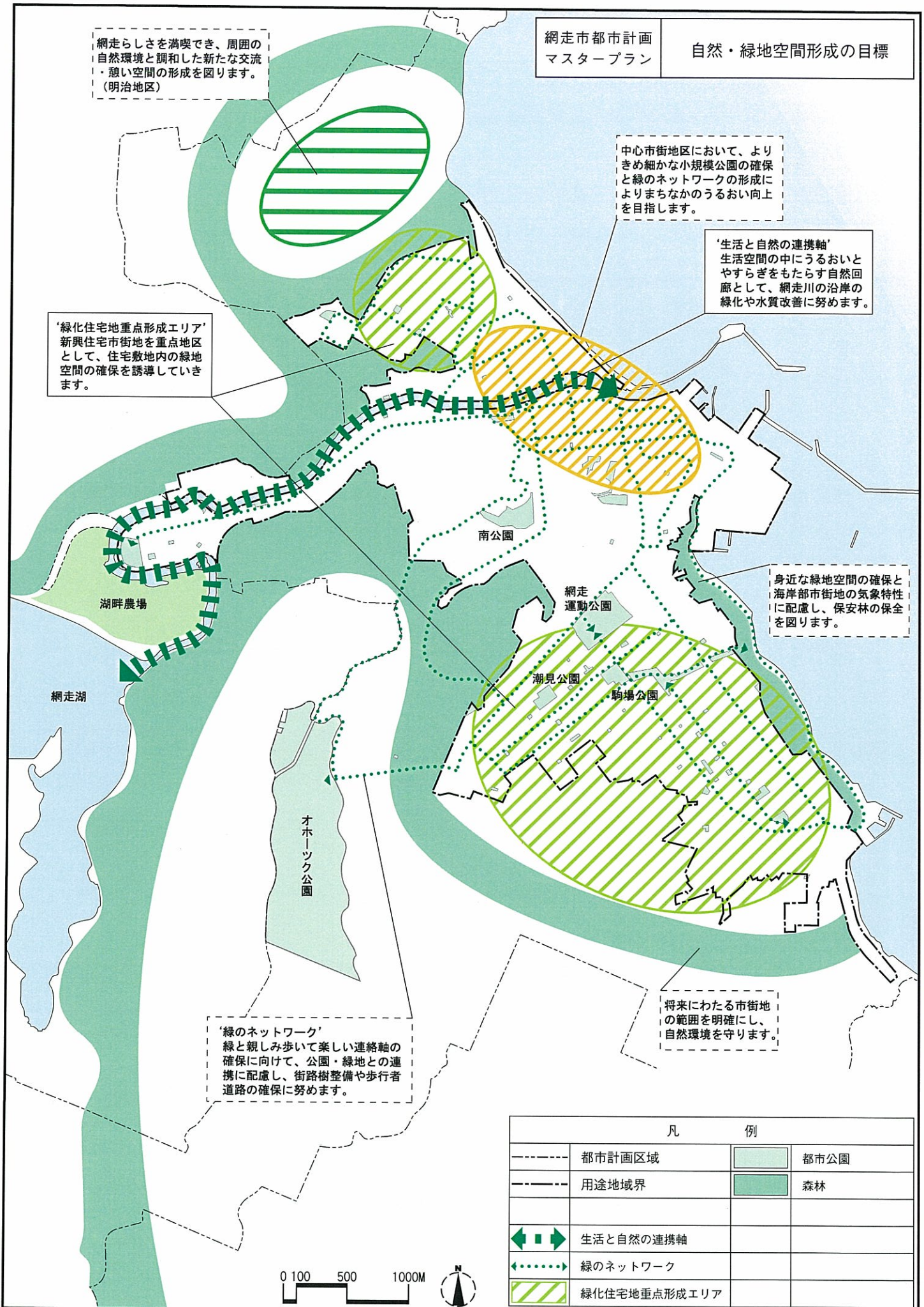
‘生活と自然の連携軸’
生活空間の中にあるおいと
やすらぎをもたらす自然回
廊として、網走川の沿岸の
緑化や水質改善に努めます。

‘緑化住宅地重点形成エリア’
新興住宅市街地を重点地区
として、住宅敷地内の緑地
空間の確保を誘導していき
ます。

身近な緑地空間の確保と
海岸部市街地の気象特性
に配慮し、保安林の保全
を図ります。

‘緑のネットワーク’
緑と親しみ歩いて楽しい連絡軸の
確保に向けて、公園・緑地との連
携に配慮し、街路樹整備や歩行者
道路の確保に努めます。

将来にわたる市街地
の範囲を明確にし、
自然環境を守ります。



凡 例			
-----	都市計画区域		都市公園
-----	用途地域界		森林
	生活と自然の連携軸		
	緑のネットワーク		
	緑化住宅地重点形成エリア		

第3章

都市計画マスタープラン

地域別構想

I. 地域別構想の策定にあたって

1. 地域区分

網走市都市計画マスタープランにおいては、市街地の特性や全市における位置づけ、字界また地形条件などにより、都市計画区域内を5つの地区に分けて将来の構想図作りを行うこととしました。

2. 地域別構想ワークショップの開催経緯

地域別構想の策定に際しては、地域の住民の方々の参加のもとワークショップを開催しながら、進めてきました。

第1回：平成13年 7 月24日

テーマ：地域における、「守りたいもの」、「活かしたいもの」、「あったらいいもの」、「ないほうがいいもの」 について

第2回：平成13年 9 月26日

テーマ：地域の資源の見直し 地区のテーマキャッチフレーズ について

第3回：平成13年11月27日

テーマ：地区のテーマキャッチフレーズの見直し 構想図の作成 について

第4回：平成14年 4 月24日

テーマ：キャッチフレーズの設定 構想図の見直し について

第5回：平成14年 5 月 9 日

テーマ：キャッチフレーズの設定 構想図の見直し について
(中心部周辺地区・西部地区のみ)

地域区分図

注) ・都市計画区域内について区分しています。
・区分線は、おおよその目安です。

北部

中心部

西部

中心市街地周辺部

南部

呼人

0 100 500 1000M



凡 例

凡 例			

Ⅱ. 「まちづくりの目標」との関連

全体構想の「まちづくりの目標」と、次ページ以降に展開する地域別の「まちづくりの基本方針」との間には、以下に示すような関連があります。

地域名	地区のまちづくりの基本方針	全体構想のまちづくりの目標		
		①豊かさを 実感できる まち	②人と人との 交流が あふれる まち	③自然を守 り、育てる まち
北部地区	①豊かな自然環境の保全・活用			★
	②だれもが安心して住める安全・快適な 定住環境づくり	★		
	③ここにしかない魅力の活用・アピール			★
中心市街地	①商業・アプト4の魅力向上	★		
	②まちなか居住の推進	★		
	③便利で快適な中心部づくり	★		
	④自然・歴史など網走らしさの活用	★		
	⑤にぎわい交流の場の創出		★	
中心市街地 周辺地区	①便利で快適な定住環境の確保	★		
	②新たな土地利用の展開	★		
	③みなとの整備・活用	★		
	④環境にやさしい「サイクリングネットワークのま ちづくり」の推進			★
西部地区	①居住環境の保全と向上	★		
	②国道39号沿道の魅力づけ	★		
	③地区資源の保全と活用			★
	④環境にやさしい「サイクリングネットワークのま ちづくり」の推進			★
南部 地区	①市街地周辺の自然環境の保全			★
	②良好で利便性の高い住環境の維持	★		
	③憩いある歩行者ネットワークの形成	★		
呼人地区	①自然環境の保全			★
	②自然空間でのレクリエーション機能の向上			★
	③市街地の街並み景観形成	★		
	④住民協力体制の強化、住民活動の促進		★	

★：主要な対応部分

Ⅲ. 地区別まちづくりの方針

1. 北部地区

(1) 地区の現況

北部地区は、網走川河口左岸側の国道 39 号より北側に位置する地区で、中心市街地と面的に一体的な低部市街地と背後の丘陵地及びオホーツク海に面する海岸部で構成されています。

地区内において、海岸部では水産加工を主体とする工業施設と住宅が混在しており、また、国道 39 号沿道には行政施設などが立地していますが、その他の市街地は住宅が中心となっています。

現在、中心市街地を望む高台での新規の宅地開発が進んでおり、地区居住者は年々増加しています。

今後は、幹線道路の沿道、海岸部など住宅以外の土地利用が図られている地区、また、大規模な公共施設跡地のほかは、将来的にも安定的な住宅地として、生活道路の整備などにより、安全で快適な定住環境の創出を図ることが必要となっています。

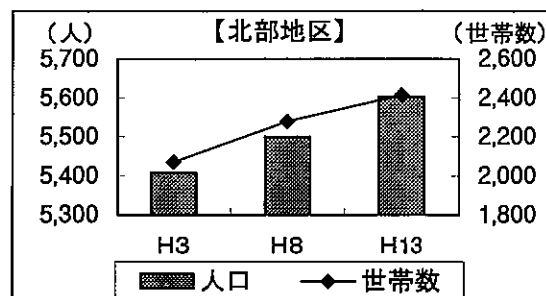
また需要に応じて、北側隣接地へ連絡する明治能取線整備を契機として、自然環境に配慮した新たな土地利用の検討も必要になると考えられます。

■ 北部地区の人口、世帯数の推移

	平成3年	平成8年	平成13年
人口	5,408	5,500	5,601
世帯数	2,070	2,278	2,414

資料：住民基本台帳

注) 住民基本台帳調査区域のうち、「北東」と「北西1～8」区域の合計値の半数と、「海岸町」「緑町」「向陽ヶ丘」「明治」「二ツ岩」の値を合わせた数値を北部地区の人口、世帯数としている。



(2) 地区の資源

壮大なオホーツク海を望む北部地区では、青々と広がる夏の海や一面が流水で覆われるオホーツクならではの冬の姿など、四季折々の海の様子を間近に感じることができます。特に、高台住宅地ではオホーツク海を展望できるポイントが随所にあり、自然を満喫できる暮らしを楽しめます。

一方、高台新興住宅地の北側に広がる農地と樹林の緑地空間は、身近に自然を体感できる憩い空間となっており、さらにこれら緑地内の林道沿いには、カエルの生息地の保護を目的とする‘カエルの里’として位置づけられている池・湿地があり、小学生などの貴重な自然観察の場となっています。

そのほか、低部住宅市街地では、近年、相互の連携に配慮した医療・福祉関係施設の集約的な整備が進められており、全市的な医療・福祉支援の拠点としての役割を担っています。

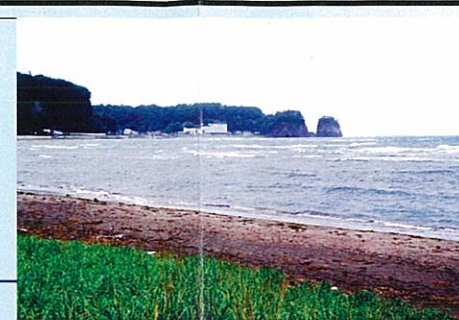
北部地区のまちのようす



樹林の中の整備済み道路



一面に広がる畑



ニツ岩方面を望む



遠くまで広がる野菜畑



市街地郊外の浜辺



道路を整備中



海岸沿いの工場群



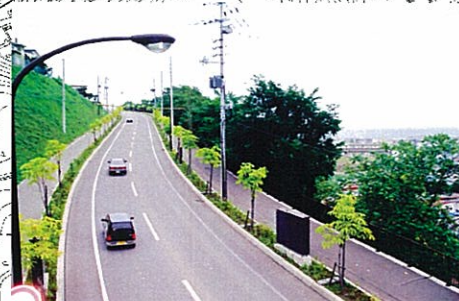
二中、向陽高校跡地周辺とその向こうに見えるオホーツク海



大きな池



カエルの里の入口



向陽ヶ丘へ登る坂



国道39号沿い

(3) まちづくりの将来像

北部地区のまちづくりにあたっては、自然に囲まれたうるおいある居住拠点地区として、自然の保全と良好な住環境の維持・増進を目標とします。

このことから、本地区のまちづくりの将来像を

『みんなでつくる網走のモデルタウン』

とし、海・山・川と一体感のある自然色豊かな環境を確保しながら、市の良好な住環境のモデルとなる地区の形成を目指します。

(4) まちづくりの基本方針

将来像の具体化にむけて、以下の基本方針を柱としたまちづくりを展開します。

1) 豊かな自然環境の保全・活用

まちの宝であり貴重な憩い空間であるオホーツク海の海岸部においては、人々にとっての安心・快適な親水空間として、再生にむけた海岸部の環境や景観の保全に努めます。

また、明治・向陽ヶ丘に広がる山林・農地は、豊かな自然を身近に親しめる緑地空間としてその環境保全に努めながら、自然体験の場としての活用や周囲の自然と調和した環境共生型の住宅づくりの可能性についても検討します。

2) だれもが安心して住める安全・快適な定住環境づくり

市街地中心部の商業地に近接し「川向い」の住宅地として比較的早くから市街化が進んだエリアでは、一部で狭隘な道路や老朽住宅の密集などがみられますが、ゆとりと安全性を確保した住環境の創出と広域的な都市防災上の観点から、適切な市街地環境への改善に努めます。

また、高台に形成されている新興住宅地エリアでは、良好で快適な定住環境の確保にむけて、機能的で安全な道路、公園などの環境整備を進めます。

二中・向陽高校跡地及び中央小学校跡地では、地域の居住ニーズを踏まえながら住居系を中心とした適切な土地利用の促進を図ります。

さらに、近年地区内で医療・福祉関連施設の集約的整備が進められ、福祉サービスの拠点的な役割を担っている低地部住宅市街地では、高齢化社会の進展に対応する充実した医療・福祉サービスの提供にむけて、今後とも関連施設の整備や相互の連携強化を支える効果的な周辺土地利用や環境整備を図ります。

そのほか、海岸部については、水辺環境への配慮とともに、住工混在地区の解消に努めます。

3) ここにしかない魅力の活用・アピール

長く伸びる海岸線や静かさと落ち着きを味わえる山林空間の魅力を再評価し、散策路整備などによる親水・親緑環境の向上に努め、網走の自然の豊かさを満喫できるまちの宝としての認識を共有できるよう取り組みを進めます。

◇◇◇北部地区のまちづくりの目標◇◇◇

【まちづくりの将来像】

【まちづくりの基本方針と主要な取り組み目標】

北部地区の現況・特性

- ・海・山・林・畑と自然が豊富
- ・高台で宅地造成が進められている
- ・いろいろな観光・交流ポイントがある
- ・全市的な福祉施設・公共施設が充実している
- ・学校が多く、学生がたくさんいる
- ・野生の動物が多く見られる

北部地区の課題

- ・国道39号沿道がさびしい
- ・日常生活のための商店が少ない
- ・水圧が低いところがある
- ・オホーツク海岸が汚れている
- ・公園が少ない
- ・接道が不備な住宅が一部に見られる
- ・福祉センターに駐車場が少ない
- ・低地部住宅市街地との道路アクセスが悪い
- ・二中・向陽高校跡地の効果的活用が必要

網走の奥座敷

網走のモデル
となる地域

自然に囲まれ生
き生きとした住
環境づくり

みんなであ
つくる
網走のモ
デルタ
ウン

自然(山・海・川)
と一体感のあ
るまち

網走を小さく
したようなと
ころ

いやしのまち

◆豊かな自然環境の保全・活用

- ・明治・向陽ヶ丘の未開発地の自然を保全する
- ・野生動植物との共生を図る
- ・海岸線における環境保全の推進
- ・自然と触れ合う場所づくり(川や林道を活用した自然散策ルートなど)

◆だれもが安心して住める安全・快適な定 住環境づくり

- ・都市計画道路(北山通、中央通)の整備促進
- ・生活道路の環境整備
- ・自然の地形と緑を残した特色ある住宅づくりの検討
- ・防災面も考慮した道路ネットワーク
- ・多目的に活用できる空間づくり(公園や緑地など)
- ・住居系を主体とする学校施設跡地の有効活用
- ・福祉施設などの既存施設の集積を活かした福祉ゾーンの形成
- ・海岸部における住工混在地区の解消

◆ここにしかない魅力の活用・アピール

- ・地区の資源や観光スポットのPR(カエルの里ほか)
- ・海岸線の散策道路・観光コースづくり
- ・海岸線の美化清掃の推進
- ・眺望の良さを活かしたスポットづくり(海や市街地を一望できる展望台)

北部地区まちづくり構想図

- 住居系土地利用（現況）
- 商業系土地利用（現況）
- 工業系土地利用（現況）
- 主要道路
- 公園
- 樹林、斜面緑地、農地
- 主な公共公益施設
- 河川、河川沿いの緑地

・自然と触れ合う場所づくり
（川や林道を活用した自然散策ルートなど）

・自然の地形と緑を残すなど、自然に
配慮した特色ある住宅づくりの検討

・野生動植物との共生

・明治・向陽ヶ丘の未開発地の
自然の保全

・カエルの里や蜃気楼など、地区
の資源や観光スポットのPR

・海岸線における環境保全の推進
・海岸線の散策道路・観光コースづくり
・海岸線の美化清掃の推進

・防災面も考慮した道路ネットワーク
（市道の整備）

・都市計画道路の整備促進

・福祉施設などの既存施設の集積を活かした福祉ゾーンの形成
（シルバーハウジング、高等看護学院、総合福祉センター、
網走厚生病院 ほか）

・住工混在地区の解消

北部地区のまちづくりの
テーマ・基本方針

みんなでつくる網走のモデルタウン

- ◆豊かな自然環境の保全・活用
- ◆だれもが安心して住める安全・快適な定住環境づくり
- ◆ここにしかない魅力の活用・アピール

・生活道路の環境整備
・眺望の良さを活かしたスポットづくりや
多目的に活用できる空間づくり
（海や市街地を一望できる展望台ほか）

2. 中心市街地・中心市街地周辺地区

(1) 地区の現況

網走市の中心市街地は網走川河口部に位置しており、その周辺地区は中心市街地の南側に隣接する丘陵部を含んだ住宅地と、網走港で構成されています。

当地区は都市としての多様な機能が備わっており、網走だけでなくオホーツク圏にとっての中核機能が集積している地区となっています。

中心市街地では基礎的都市基盤の整備充実と立地環境を踏まえた土地利用転換などが期待されており、その周辺に位置する住宅市街地は生活上の利便性が高い立地環境を有しています。

しかし一方で、地区居住者の動向をみると中心市街地を中心に年々減少が続いています。

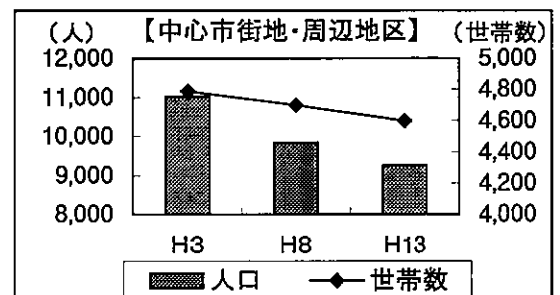
中心市街地及び周辺地区では、将来においてもこれら既存の都市機能集積を活かし、オホーツク圏における行政・産業・交流などの拠点としてふさわしい高度な土地利用と都市基盤の充実を促進していくことが求められます。

■中心市街地及び周辺地区の人口、世帯数の推移

	平成3年	平成8年	平成13年
人口	11,023	9,833	9,246
世帯数	4,788	4,698	4,598

資料：住民基本台帳

注) 住民基本台帳調査区域のうち、「北東」と「北西1～8」区域の合計値の半数と、「東」「西」「台町」「桂町」「天都山」「錦町」「港町」の値を合わせた数値を中心市街地及び周辺地区の人口、世帯数としている。



(2) 地区の資源

地区内を流れ網走のまちの発展を支えてきた網走川では、市民が思い思いに散策を楽しんでいるほか、プレジャーボートなどのけい留地としても利用されており、夏は祭りやイベントが開催され網走の‘涼’を満喫できます。

冬にはオホーツクの冬の観光名物となっている流水観光砕氷船の運行が行われ、毎年全国からの多くの人々に利用されています。

また、早くから開けた集落地帯として様々な歴史・文化遺産が点在しており、河口部にはオホーツクの先住民族の生活跡などが保存されるモヨロ貝塚・資料館があるほか、中心市街地を見下ろす南側の高台では緑あふれる環境のなかで歴史ある神社や郷土博物館などの文化施設が集約しています。

そのほか、近年網走川に面して公民館、図書館機能を併せ持ったオホーツク・文化交流センターが整備され、新たな広域交流の拠点となっています。

中心市街地・中心市街地周辺地区
のまちのようす



大曲の公営住宅団地



芝生が広がる大曲公園



川沿いの親水空間



網走川のようす



J R 網走駅



ボート競技関連施設



資料館ジャッカ・ドフニ



オホーツク・文化交流センターと
前面の河川敷



モヨロ貝塚館



数多く残る竪穴など



アパート4



桂ヶ岡の郷土博物館



網走川祭の噴水

(3) 中心市街地のまちづくりの目標

(「網走市中心市街地活性化基本計画」による)

中心市街地のこれからのまちづくりにむけては、「網走市中心市街地活性化基本計画」において設定されている、

『めざそう!! 歩いて暮らせるまちづくり ～出会い・ふれあいの中心市街地～』

のコンセプトのもとで、回遊性の創出や定住人口の増加及び都市機能の充実・強化、さらには観光客などとの交流促進を目指します。

このコンセプトの実現にむけては、‘商業・アプト4の魅力向上’‘まちなか居住の推進’‘便利で快適な中心部づくり’‘自然・歴史など網走らしさの活用’‘にぎわい交流の場の創出’を整備方針とし、商業者との連携によるソフト施策や都市機能の向上のためのハード整備などを展開します。

(4) 中心市街地周辺地区のまちづくりの将来像

中心市街地周辺地区のこれからのまちづくりにあたっては、立地条件の良さを活かした、多くの機能を有する、利便性の高い地区づくりを目指します。

このことから、本地区のまちづくりの将来像を

『個性を活かした多機能タウン～自然と文化とくらしとの融合』

とし、海・住宅地・歴史的施設・教育施設など多様な顔をもつ地区として、各々の機能が調和・融合した個性的なまちづくりを進めます。

(5) 中心市街地周辺地区のまちづくりの基本方針

将来像の具体化にむけて、以下の基本方針を柱としたまちづくりを展開します。

1) 便利で快適な定住環境の確保

歴史があり基本的な都市基盤が備わっている市街地環境について、今後の居住者動向や新たな交通網の必要性及び地区の役割を踏まえ、利便性の高い定住環境の維持に努めます。

そして、中心部との近接性による生活利便性や中心市街地の活性化を支える住宅地としての居住ニーズを踏まえた住宅地づくりを推進します。

また、中心市街地活性化との連動のもと、回遊性のある魅力ある地区の創出にむけ、歴史・文化ゾーンの活用と保全に努めます。

2) 新たな土地利用の展開

本地区内には、近年の居住者動向などの変化に伴って大小の未利用地が点在していますが、その立地環境としての利便性の高さ、眺望の良さなど海、山と身近に暮らせる魅力、さらには産業活動などにおける優位性を活かした有効な土地利用の展開を検討します。

また、地区間連携の主要ルートとなる西山通の新規整備をインパクトとして、周辺部においては住居系を中心とした効果的・効率的な土地利用の推進を図ります。

3) みなとの整備・活用

網走市及びオホーツク圏での産業・物流拠点として重要な役割を担う網走港では、地域の産業活動などの活性化と飛躍にむけて、港湾拡張に伴う適切で効果的な施設整備を図ります。

併せて、現在の土地利用実態を踏まえ、都市的土地利用と港湾土地利用の区分の明確化（臨港地区区域の見直し）を進めます。

また、市街地との近接性を踏まえて、港湾施設を市民にとっての身近な親水空間として開放し、環境整備を行います。

4) 環境にやさしい「サイクリングネットワークのまちづくり」の推進

（※西部地区との共通方針）

自然環境に配慮した網走らしい暮らしを实践する先導的な取り組みとして、中心市街地から西部地区までの市街地を貫く網走川河畔における既存のサイクリングロードについて、サイクリングやウォーキングをはじめとした日常的なレクリエーション空間としての積極的な活用を促進します。

◇◇◇中心市街地・中心市街地周辺地区のまちづくりの目標◇◇◇

中心市街地の現況・特性

- ・全市及び林-ツノ圏の行政機能の中心地
- ・JR駅、バスターミナルが位置している
- ・大小の商業施設が集積している
- ・市民及び広域交流の核施設が位置している
- ・定住人口の減少、高齢居住者の増加が進む

中心市街地の課題

- ・商店街景観や個店の魅力に乏しい
- ・観光客などの中心地への立ち寄りが少ない
- ・既存の公園・緑地の利用が少ない
- ・道路環境や空き地の点在など、中心部の都市機能上の改善が必要
- ・歩行者空間の環境や交通結節機能が不備

中心市街地周辺地区の現況・特性

- ・市内で早くから形成された住宅市街地
- ・重要港湾網走港を擁する
- ・中心部とのアクセス利便性が高い
- ・歴史・文化関連施設(博物館、史跡など)が点在している
- ・未利用地が多く残されている
- ・一部エリアは鉄道・地形により中心部と分断されている

中心市街地周辺地区の課題

- ・比較的歴史のある住宅地として将来にわたって安心できる住環境の維持が必要
- ・生活利便性の高さを活かした住宅地づくりが求められている
- ・良好な立地環境にある大規模な未利用地(公営住宅跡地)が残されている
- ・港湾部における貴重な水辺空間としての機能の充実が期待されている
- ・網走市及びオホーツク圏の重要な産業・物流拠点としての網走港の港湾機能の強化が必要

「網走市中心市街地活性化基本計画」より

【まちづくりのコンセプト】

めざそう！！
歩いて暮らせるまちづくり
～出会い・ふれあい中心市街地～

【まちづくりの整備方針】

- ◆商業・アパート4の魅力向上
- ◆まちなか居住の推進
- ◆便利で快適な中心部づくり
- ◆自然・歴史など網走らしさの活用
- ◆にぎわい交流の場の創出

【まちづくりの将来像】

港があるまち

アメニティ機能が高いまち

身近で便利なまち

個性を活かした。多機能タウン
自然と文化とくらしとの融合

車に頼らずに歩いて暮らせるまち

便利で何でもそろえるまち

【まちづくりの基本方針と主要な取り組み目標】

◆便利で快適な定住環境の確保

- ・都市計画道路(西山通)の整備促進
- ・生活道路の環境整備
- ・まちなか居住ニーズに応じた住宅づくり
- ・歴史・文化ゾーンの保全と活用

◆新たな土地利用の展開

- ・眺望などの立地特性や利便性を活かした土地利用の検討
- ・西山通の整備を契機とした周辺の土地利用の促進

◆みなとの整備・活用

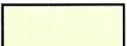
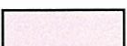
- ・港湾計画に基づく網走港の整備と活用促進
- ・現在の土地利用を踏まえた都市的土地利用と港湾土地利用区分の明確化(臨港地区区域の見直し)
- ・市民や観光客が憩える、みなととのふれあい空間づくり

◆環境にやさしい「サイクリングネットワークのまちづくり」の推進

※西部地区との共通方針

- ・網走川河畔をつなぐサイクリングコースの活用(冬はクロスカントリーコースとして利用)
- ・自転車利用を促進する環境づくり

中心市街地・中心市街地周辺地区 まちづくり構想図

 住居系土地利用 (現況)	 公園
 商業系土地利用 (現況)	 樹林、斜面緑地、農地
 工業系土地利用 (現況)	 主な公共公益施設
主要道路	JR線

中心市街地のまちづくりのコンセプト・整備方針
(「中心市街地活性化基本計画」より)

めざそう!! 歩いて暮らせるまちづくり
～出会い・ふれあい中心市街地～

- ◆商業・アパート4の魅力向上
- ◆まちなか居住の推進
- ◆便利で快適な中心部づくり
- ◆自然・歴史など網走らしさの活用
- ◆にぎわい交流の場の創出

- ・網走川河畔をつなぐサイクリングコースの活用
- ・冬期間はクロスカントリーコースとして利用

・アパート4の魅力向上

・中心部への誘導促進

・都市核の形成

中心市街地区域

網走川河畔軸

網走駅

公営住宅跡地と大規模な未利用地

南公園

歴史・文化施設の集積ゾーン

墓地

周辺住宅地

- ・眺望の良さや利便性を生かした土地利用の検討
- ・大規模未利用地の活用(ソフト施策の検討も必要)

・都市計画道路の整備促進

中心市街地周辺地区の
まちづくりのテーマ・基本方針

個性を活かした多機能タウン
～自然と文化と暮らしとの融合

- ◆便利で快適な定住環境の確保
- ◆新たな土地利用の展開
- ◆みなとの整備・活用
- ◆環境にやさしい『サイクリングネットワークのまちづくり』の推進

・生活道路の環境整備

- ・まちなか居住ニーズに応じた住宅づくり
- ・住居系を中心とした、効果的・効率的な土地利用の推進

・歴史・文化ゾーンの保全と活用

- ・港湾計画に基づく網走港の整備と活用促進
- ・現在の土地利用を踏まえた都市的利用と港湾土地利用区分の明確化(臨港地区区域の見直し)
- ・市民や観光客が憩えるみなとのふれあい空間づくり

オホーツク海

網走港

網走湖

3. 西部地区

(1) 地区の現況

西部地区は、市街地の西側に位置し、国道沿道に細長く形成された市街地です。

地区の市街地現況としては、国道に沿って一般住宅、工場・倉庫、沿道型商業施設などが混在しているほか、周囲を網走川に囲まれた地区の西端部は公営住宅団地を中心とする住宅地となっており、さらに川を挟んだ対岸部には全国的に知名度の高い網走刑務所が位置し、その関連施設が建ち並んでいます。

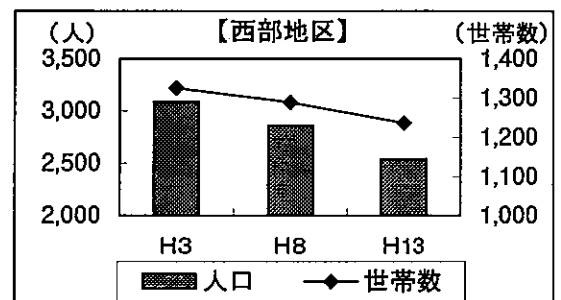
当地区は地形条件から市街地の拡大は困難なエリアであり、居住者の推移をみると年々減少が続いています。

■西部地区の人口、世帯数の推移

	平成3年	平成8年	平成13年
人口	3,087	2,863	2,541
世帯数	1,326	1,288	1,236

資料：住民基本台帳

注) 住民基本台帳調査区域のうち、「新町」「大曲」「三眺」の合計値を西部地区の人口、世帯数としている。



(2) 地区の資源

網走湖に面して広大に広がる湖畔農場は、水と緑が豊かな市民の財産として位置付けられるものであり、住宅地と隣接した立地環境も踏まえ有効活用が期待されます。

西部地区市街地の軸となる国道に沿って平行して流れる網走川と、その対岸に続く丘陵地の緑の連なりは、川と緑に育まれた網走の独特の市街地景観を有しています。

そのほか、住宅団地に近接して、先住民族の生活様式などを伝える資料館ジャッカ・ドフニや網走川の河川敷にはボート競技関連施設が設置されているほか、大規模な公共スペースである大曲公園も整備されており、緑豊かで落ち着いた住環境が備わっています。

西部地区のまちのようす



大曲の公営住宅団地



川沿いの親水空間



オホーツク・文化交流センターと
前面の河川敷



モヨロ貝塚館



数多く残る堅穴など



芝生が広がる大曲公園



網走川のようす



アパート4



ボート競技関連施設



桂ヶ岡の郷土博物館



網走川祭の噴水



資料館ジャッカ・ドフニ



JR網走駅

(3) まちづくりの将来像

西部地区のこれからのまちづくりにあたっては、網走市街地の玄関口としての位置づけのもと、水辺と緑と調和したうるおいある市街地の形成を目指していきます。

このことから、本地区のまちづくりの将来像を

『流れのほとりのやすらぎタウン』

と設定し、網走川のやすらぎ空間や湖畔農場、ジャッカ・ドフニなどの地区の資源を活かしながら、立地特性を踏まえた地区づくりを進めます。

(4) まちづくりの基本方針

将来像の具体化にむけて、以下の基本方針を柱としたまちづくりを展開します。

1) 居住環境の保全と向上

中高層の集合住宅団地を中心とする西部地区の住宅地においては、網走湖に近接し周囲を網走川で囲まれている恵まれた居住環境を大切に、水と緑が豊かで快適な生活空間の確保を図ります。

また、生活利便性の向上にむけて、大曲地区への近隣商業施設の誘導など生活関連機能の充実に努めます。

2) 国道39号沿道の魅力づけ

市街地中心部へ続く国道沿道では、平行して流れる網走川との一体感などに配慮した緑化や沿道土地利用、沿道施設の環境整備などにより、オホーツクの中心的な都市としての個性ある街並み景観形成に努めます。

3) 地区資源の保全と活用

オホーツクの貴重な歴史と文化を保存する資料館ジャッカ・ドフニにおいては、地区の貴重な資源として再認識しながら大切に保全していきます。

湖畔農場については、網走川・湖における治水機能の向上に配慮しながら、魅力ある空間の創出を行っていきます。

4) 環境にやさしい「サイクリングネットワークのまちづくり」の推進

(※中心市街地・中心市街地周辺地区との共通方針)

自然環境に配慮した網走らしい暮らしを实践する先導的な取り組みとして、中心市街地から西部地区までの市街地を貫く網走川河畔における既存のサイクリングロードについて、サイクリングやウォーキングをはじめとした日常的なレクリエーション空間としての積極的な活用を促進します。

◇◇◇西部地区のまちづくりの目標◇◇◇

【まちづくりの将来像】

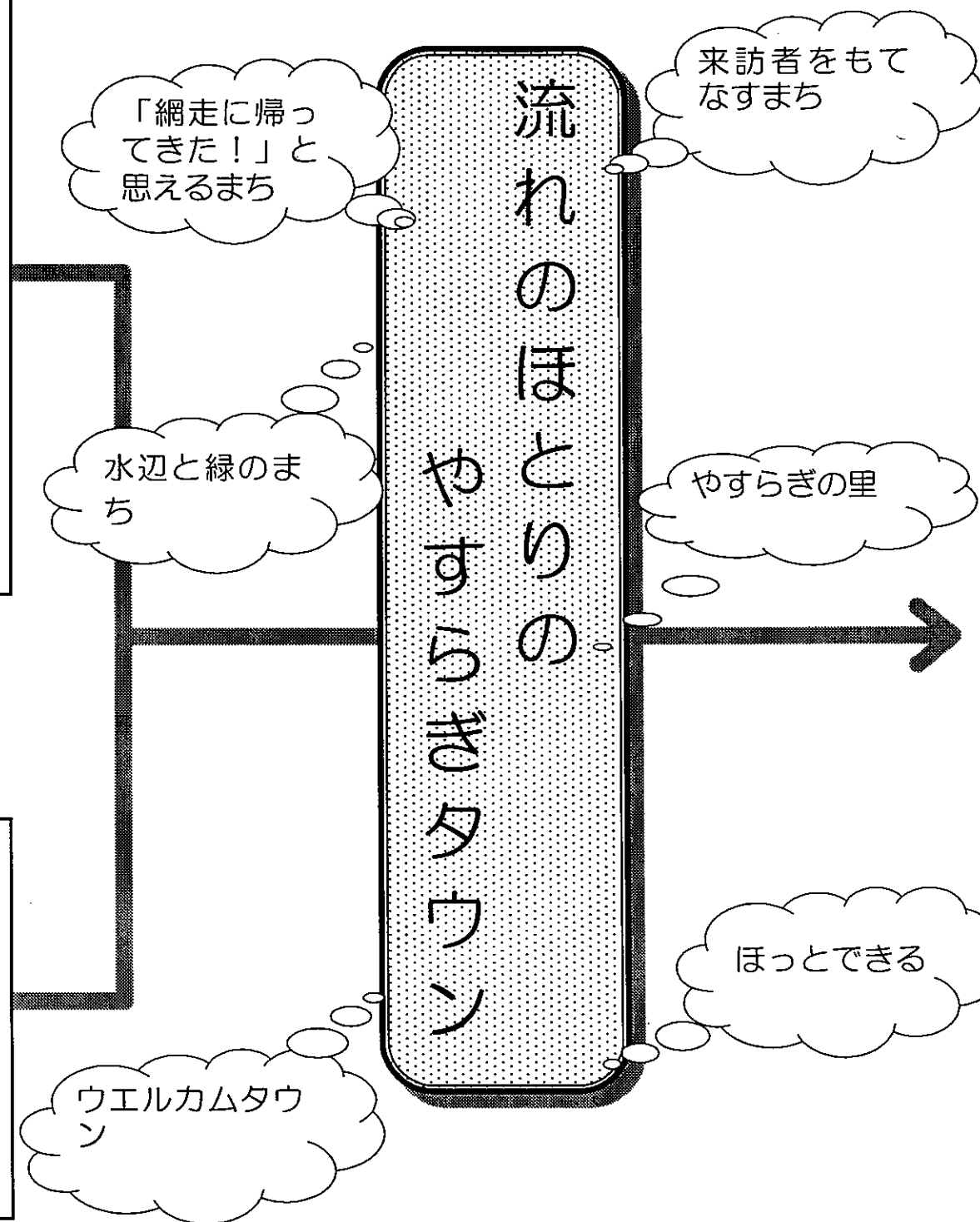
【まちづくりの基本方針と主要な取り組み目標】

西部地区の現況・特性

- ・ 網走の市街地中心の入口部分に位置する
- ・ 国道沿道及び網走川に沿って形成される線状の市街地
- ・ 住宅地は中高層の公営住宅が主体
- ・ 国道沿いには工業系施設が立地
- ・ 住宅地を取り巻くように網走川が流れている
- ・ 住宅地に隣接してまとまった緑地空間である湖畔農場が位置する
- ・ 古代の歴史・文化施設が位置している

西部地区の課題

- ・ 住宅地に近接した日常利便施設が少ない
- ・ 生活に身近な網走川と積極的に触れ合える機能が少ない
- ・ 国道沿道での魅力ある街並みに乏しい
- ・ 市民財産として湖畔農場と親しみやすい機能が必要



◆居住環境の保全と向上

- ・ 網走川をはじめとする自然に囲まれた良好な中層住宅地環境の保全
- ・ 生活関連機能の充実

◆国道39号沿道の魅力づけ

- ・ きれいな沿道景観づくり
- ・ ドライバーサービス機能の充実
- ・ 網走川河畔における緑地の整備

◆地区資源の保全と活用

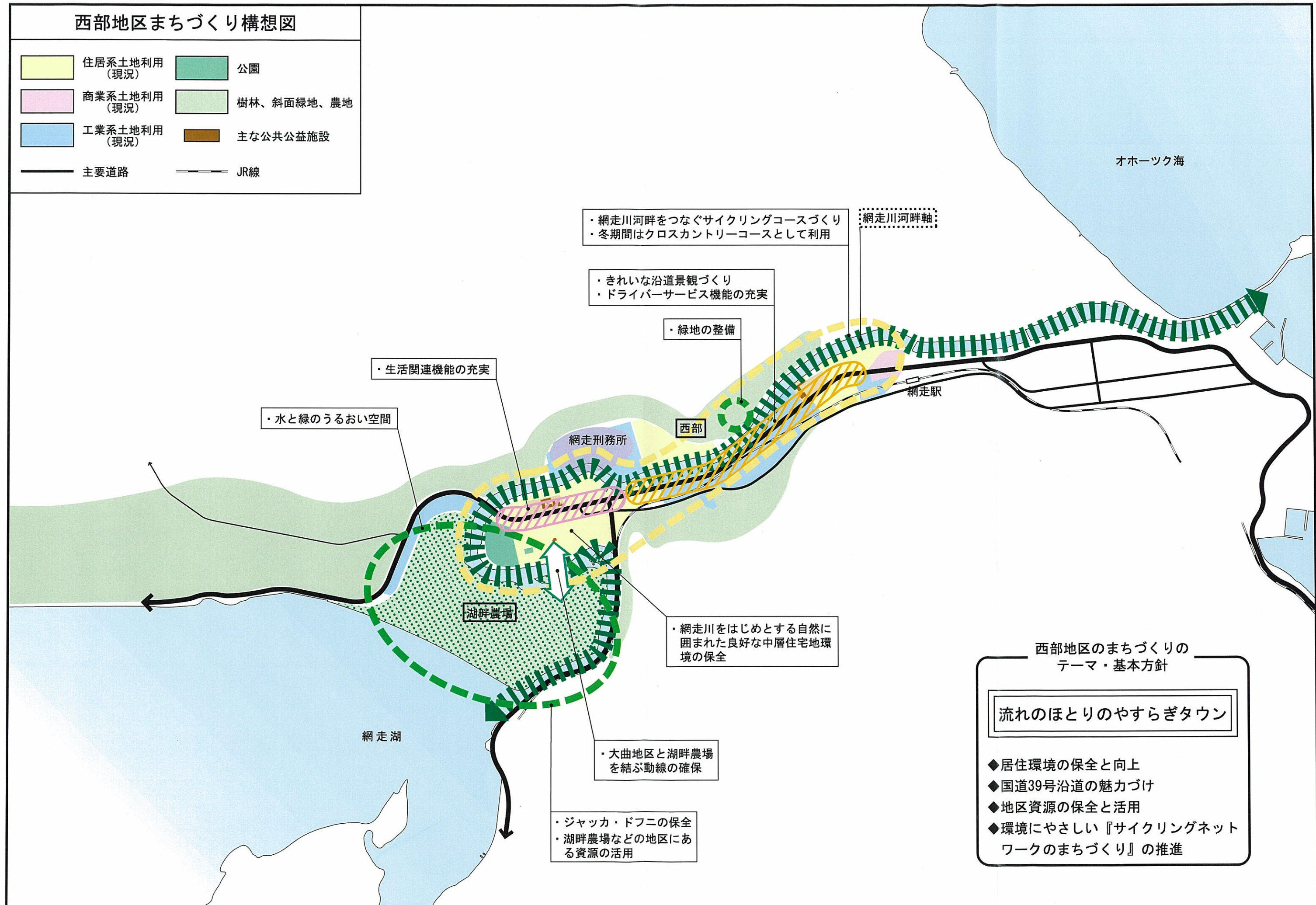
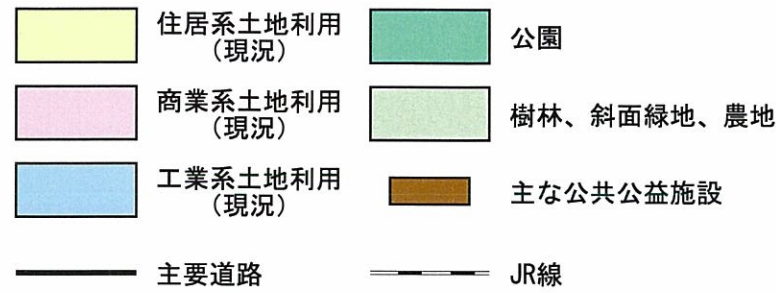
- ・ ジャッカ・ドフニの保全
- ・ 湖畔農場の活用

◆環境にやさしい「サイクリングネットワークのまちづくり」の推進

※中心市街地・中心市街地周辺地区との共通方針

- ・ 網走川河畔をつなぐサイクリングコースの活用（冬はクロスカントリーコースとして利用）
- ・ 自転車利用を促進する環境づくり

西部地区まちづくり構想図



西部地区のまちづくりの テーマ・基本方針

流れのほとりのやすらぎタウン

- ◆ 居住環境の保全と向上
- ◆ 国道39号沿道の魅力づけ
- ◆ 地区資源の保全と活用
- ◆ 環境にやさしい『サイクリングネットワークのまちづくり』の推進

4. 南部地区

(1) 地区の現況

南部地区は市街地の南側に位置し、全市の中で最も大規模な住宅系の市街地が形成されており、現在も新規戸建住宅地開発が進む新興住宅市街地です。

宅地開発に伴って道路、公園などの都市基盤整備が計画的に進められ、ゆとりと個性があり、近接する緑地や公園と調和した緑があふれる良好な住環境が備わっています。また、居住者も年々増加し現在は全市人口の約半数を占めています。

近年の居住者の増加に併せて地区内及び広域的な幹線道路である3・3・3本通沿道には大型商業施設が立地し、郊外型の新たな商業ゾーンが形成されています。

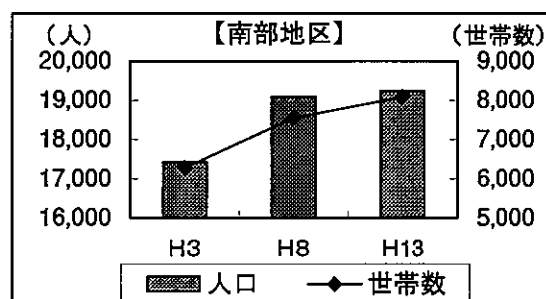
一方、将来、本地区の南端部を乗降点とする高規格幹線道路の整備が検討されており、この具体化にむけて周辺住環境に配慮した新たな土地利用や基盤整備の検討が重要となっています。

■南部地区の人口、世帯数の推移

	平成3年	平成8年	平成13年
人口	17,424	19,088	19,240
世帯数	6,275	7,539	8,075

資料：住民基本台帳

注) 住民基本台帳調査区域のうち、「駒場北・南」「つくし」「潮見・潮見部落」「鱒浦」「八坂」の合計値を南部地区の人口、世帯数としている。



(2) 地区の資源

新興住宅地として計画的な市街地整備が進められてきた本地区内には、緑豊かな道路が続き、個性ある住宅が建ち並ぶ住宅地景観もみられます。

また、整然と整備された住宅地を縫うように、地形の起伏を活かしながら広々と整備された駒場公園が位置しており、海側では防風林となる樹林帯が形成され、これらの中には緑とふれあいを楽しめる‘木の広場’が整備されているほか、野球場などが整備されている運動公園と併せて、緑あふれる豊かな憩い空間が位置する恵まれた環境にあります。

そのほか、市街地の外縁部は樹林などが広がっており、さらにその間を自然の姿を残すオショップ川、オビオショップ川などが流れ、自然と身近な暮らしを実感することができます。

南部地区のまちのようす



駒場公園と周辺住宅地



多くの商店街が建ち並ぶ3・3・3本通



美しく整備された駒場公園



木の広場



住宅地内のオビオショップ川



既存の公園（つくしヶ丘公園）



オショップ川



鱒浦神社の入口

(3) まちづくりの将来像

南部地区のこれからのまちづくりにあたっては、居住拠点地区としての良好な住環境の維持と楽しさあふれる生活機能の向上を目標とします。

このことから、本地区のまちづくりの将来像を

『ちょっとおしゃれに住めるまち・網走の山の手』

とし、ゆとりと落ち着きある生活空間と都市基盤が整った質の高い住環境を確保し、住宅地と調和した魅力的な商業機能の導入などによる個性的な住宅市街地としてのまちづくりを目指します。

(4) まちづくりの基本方針

将来像の具体化にむけて、以下の基本方針を柱としたまちづくりを展開します。

1) 市街地周辺の自然環境の保全

南部地区には住宅地と近接して、樹林、農地が広がり、これらを縫うように小河川が流れており、緑と水の身近な自然環境は、生活に潤いと豊かさをもたらす大切な資源となっています。

したがって、将来にわたる身近な自然の豊かさを実感できる潤いある暮らしの維持にむけて、これらの緑地や河川環境の保全に努めます。

2) 良好で利便性の高い住環境の維持

南部地区は居住拠点地区として、低層住宅を主体としたゆとりと個性ある住宅地づくりを進めるとともに、公営住宅団地の建替の促進にあわせ、空地の確保や活用を進め、良好な居住環境づくりを行っていきます。

また、良好な住環境の維持と管理にあたっては、住民を主体とする活動の推進にむけた行政との協力体制づくりを図ります。

一方、多様な商業施設が集積する3・3・3本通沿道においても、居住拠点地区を支える生活関連ゾーンとして、利便性が高く、魅力的な商業機能の向上に取り組みます。

さらに、生活道路の整備・環境の向上を図り、将来的な高規格幹線道路の整備の際には、周辺住環境の保全に配慮した接続道路網の形成を図るとともに、新たな需要に対応した土地利用転換などについても検討します。

3) 憩いある歩行者ネットワークの形成

地区内の大小の公園・緑地周辺では、わかりやすい案内標示板の設置や遊具の充実を図り、また、これら公園・緑地の相互を結ぶ歩行者空間には小公園や個性的な商業店舗などの配置により緑のネットワーク化を進め、より親しみやすい交流空間としての環境整備に取り組みます。

◇◇◇南部地区のまちづくりの目標◇◇◇

【まちづくりの将来像】

【まちづくりの基本方針と主要な取り組み目標】

南部地区の現況・特性

- ・新興住宅市街地
- ・人口・世帯数が増加中
- ・計画的に整備された都市基盤整備（道路、公園など）
- ・沿道型商業施設が集積
- ・地区外縁は畑、緑地が取り囲む
- ・民間主導の宅地開発が進行中
- ・高規格幹線道路及びインターチェンジ整備を検討中

南部地区の課題

- ・新興住宅地としての良好な住環境の維持・向上にむけた取り組みが必要（公園の利便性、道路・歩道の安全性、街並み景観など）
- ・市街地の拡大に伴う周囲の自然空間（川、農地、緑地）が減少しつつある
- ・住宅地に調和した遊びや楽しさあふれる新たな商業機能が求められている
- ・将来の高規格幹線道路整備に伴う流入動線や生活動線などの錯綜が想定される

ゆとりと落ち着いた生活空間

都市基盤が整った質の高い住環境

ちよっとおしゃれに
住めるまち・網走の山の手

居住拠点地区

小粋でおしゃれな生活拠点

おしゃれで楽しい商業空間

◆市街地周辺の自然環境の保全

- ・農地の維持
- ・樹林の保全
- ・河川（オショップ川、オビオショップ川）の環境保全

◆良好で利便性の高い住環境の維持

- ・低層主体の住宅地づくり
- ・住民の主体的な活動による、良好な住環境の効率的な維持・管理
- ・3・3・3本通における、便利で快適な沿道型商業空間づくり
- ・都市計画道路（潮見団地通線、つくしヶ丘通線、西山通）の整備促進
- ・公営住宅団地の建替整備の促進
- ・高規格幹線道路整備に伴う利便性と安全性に配慮した交通体系の確保と、需要を見据えた適切な土地利用の検討

◆憩いある歩行者ネットワークの形成

- ・既存公園・緑地の環境整備（案内板、出入口、遊具など）
- ・公園・緑地などを結ぶ魅力ある歩行者ネットワークづくり（植樹、小公園・こだわりの店をつなぐ“こみち”など）

南部地区まちづくり構想図

- 住居系土地利用（現況）
- 商業系土地利用（現況）
- 工業系土地利用（現況）
- 主要道路
- JR線
- 公園
- 樹林、斜面緑地、農地
- 主な公共公益施設
- 河川、河川沿いの緑地

・河川的环境保全

南部地区のまちづくりの
テーマ・基本方針

ちょっとおしゃれに住めるまち
網走の山の手

- ◆市街地周辺の自然環境の保全
- ◆良好で利便性の高い住環境の維持
- ◆憩いある歩行者ネットワークの形成

・都市計画道路の整備促進

・低層主体の住宅地づくり
・住民の主体的な活動などによる良好な住環境づくり

・公営住宅の建替整備の促進

・周囲の住宅地景観と調和したおしゃれなお店が建ち並ぶ「こみち」の形成

・3・3・3本通における、便利で快適な沿道型商業機能の向上

・樹林の保全

・木の広場の環境整備（案内板、駐車場などの充実）

オホーツク海

鱒浦漁港

・都市計画道路の整備促進

・既存公園の環境整備（案内板、遊具など）

・歴史・文化の継承

・公園・緑地などを結ぶ魅力ある歩行者ネットワークづくり

・農地の維持
・樹林の保全

・高規格幹線道路整備に伴う利便性と安全性に配慮した交通体系の確保
・需要を見据えた適切な土地利用の検討

高規格幹線道路

オビオシヨップ川

網走中心市街地へ

南部地区住宅地内へ

知床方面へ

オシヨップ川

神社

道立オホーツク公園

運動公園

駒場公園

5. 呼人地区

(1) 地区の現況

呼人地区は網走都市計画区域の南端に位置し、国道 39 号と網走湖に面して形成された集落市街地で、用途地域の指定はされていませんが、一定規模の都市的土地利用が既に進行している地区となっています。

住居系の土地利用をはじめ、宿泊施設や福祉施設及び工業系施設の立地が見られるほか、様々な競技の利用に対応した大規模なスポーツフィールドが整備されています。

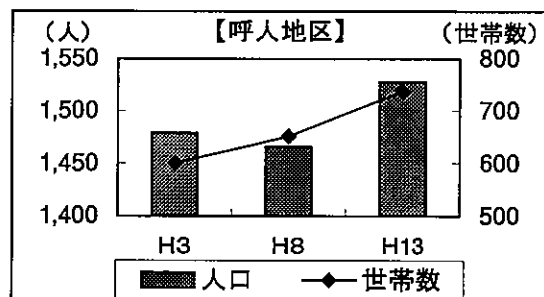
今後は、郊外型の住宅市街地としての基礎的な都市基盤の整備を進めながら、既存施設の集積を活かしたスポーツや健康を核にした交流拠点として位置づけていくとともに、周囲に広がる水や緑の貴重な自然環境の保全と調和した市街地のあり方について共通認識を持つことが必要となっています。

■呼人地区の人口、世帯数の推移

	平成3年	平成8年	平成13年
人口	1,479	1,466	1,528
世帯数	600	652	738

資料：住民基本台帳

注) 住民基本台帳調査区域のうち、「呼人」と「字大曲」の合計値を呼人地区の人口、世帯数としている。



(2) 地区の資源

呼人地区には、網走湖を中心に国定公園の指定地区があり、周囲の山林や湖に突き出した呼人半島では桜や梅、水芭蕉の群生や珍しい鳥、昆虫など、呼人ならではの自然を楽しめます。

また、本地区一帯は温泉地として大小の宿泊施設が集まっており、オホーツクを代表する温泉地の一つとして多くの来訪者があるほか、はまなす国体を契機に整備されたボート競技場があり、野球、サッカー、ラグビーなどに対応する各種の競技施設を備えた‘スポーツトレーニングフィールド’が整備されて、全国各地から社会人や学生の合宿地として利用されています。

さらに、冬のレクリエーションの場として湖に面してスキー場が位置しており、凍結した網走湖はワカサギ釣りのメッカとして毎年多くの人々ににぎわうほか、雪や氷をテーマとした各種のイベントも開催されています。

呼人地区のまちのようす



網走湖畔のキャンプ場
及び ボート競技関連施設



旧大観山線からみた田園風景



国道沿いの街並み（看板が目立つ）



J R呼人駅



呼人神社へ続く階段



国道側からみた網走湖と呼人半島



呼人半島（一面が畑地）



呼人探鳥遊歩道の入口



合宿等で活用されているスポーツトレーニングフィールド



呼人小中学校

(3) まちづくりの将来像

これからの呼人地区のまちづくりにあたっては、緑と水が豊かで美しい貴重な自然との共生を實踐し、人々のふれあいあふれる温泉の郷として、自然と調和した地域環境の創出を目指します。

このことから、本地区のまちづくりの将来像を

『森と湖と温泉のまち』

とし、自然の保全とともに、自然と親しみ楽しむための環境整備を図りながら、人々がいきいきと暮らし、交流するまちづくりに努めます。

(4) まちづくりの基本方針

将来像の具体化にむけて、以下の基本方針を柱としたまちづくりを展開します。

1) 自然環境の保全

貴重な小動物の生息や美しい植物の群生などが見られる網走湖畔の水辺、山林の自然環境を網走の大切な宝として再確認し、その認識の共有化による適切な自然資源の保全に努めます。

2) 自然空間でのレクリエーション機能の向上

自然空間での貴重な体験を提供する場として、網走湖での安全で快適なヨット・カヌー遊びのためのけい留施設のほか、ポート競技場の充実、呼人半島などの山林内での散策路の新設や案内板、休憩所の設置などにより、地区住民や来訪者がより親しく、楽しく自然と触れ合える環境整備に取り組めます。

3) 市街地の街並み景観形成

呼人地区は網走の玄関口に位置する集落市街地であり、また温泉地でもあることから、網走のまちを印象づける上で貴重な役割を担っています。

本地区では、特に幹線道路沿道において周囲の自然と調和した街並み形成を図ることとし、花や木による緑化や施設・看板のデザイン上のルールづくりなど、地区住民と行政との協力体制の強化により、来訪者をより温かく歓迎する市街地景観の向上に努めます。

4) 住民協力体制の強化、住民活動の促進

集落市街地における緊密なコミュニティを大切にし、自然環境の保全、市街地環境の維持及び住民相互の生活支援に対する地区住民の協力関係強化を図るとともに、自然の中での個性ある暮らしの実践にむけた地域物産品開発や芸術活動などの市民活動への支援に取り組めます。

◇◇◇呼人地区のまちづくりの目標◇◇◇

【まちづくりの将来像】

【まちづくりの基本方針と主要な取り組み目標】

呼人地区の現況・特性

- ・広域流入の玄関集落市街地（国道 39 号）
- ・網走湖や丘陵地による水と緑が豊富
- ・夏冬を通じ自然と親しめるレクリエーションの場
- ・スポーツ活動の拠点（各種競技フィールドが充実）
- ・湖畔を中心に温泉付きのホテル・旅館が集積
- ・自然指向の定住者が増加中

呼人地区の課題

- ・国道沿道の景観に魅力が乏しい
- ・一部で自然環境の減少がみられる
- ・地域住民及び観光客などとの交流機能が少ない
- ・自然を体感できる場が少ない
- ・呼人の魅力があまり知られていない
- ・自然などの地域資源に対する地元住民間の意識の共有化が不十分

自然と共生するまち

いやしの里

エゾリスのすむまち

スポーツを楽しむ

森と湖と温泉のまち

呼人はエコビレッジ

ビオトープの里

◆自然環境の保全

- ・緑地環境の保全
- ・水辺環境の保全
- ・湿地（水芭蕉の群生地）の保護
- ・昆虫・小動物の生活圏の環境保護
- ・群生植物の保全（桜林、梅林）

◆自然空間でのレクリエーション機能の向上

- ・カヌー、ヨットなどのけい留施設、ボート競技施設の充実
- ・呼人半島での散策路、案内板などの環境整備
- ・宿泊施設と湖を結ぶ散策路の環境整備

◆市街地の街並み景観形成

- ・花壇などの管理の協力体制づくり
- ・公共利用施設（駅、学校、農協倉庫など）周辺の緑化・環境整備
- ・建物・施設・看板に対する形態・色彩などのルールづくり（景観に関する協定などの検討）
- ・神社周辺での呼人の歴史を活かした環境整備

◆住民協力体制の強化、住民活動の促進

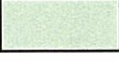
- ・住民意識の共有化による地域資源の保護
- ・相互支援システムの確立（人材バンクなど）
- ・呼人物産品の開発（リンゴ、木工、土の活用など）
- ・住民活動の場づくり（ギャラリー・工房づくり、朝市・野菜市場の活動支援など）

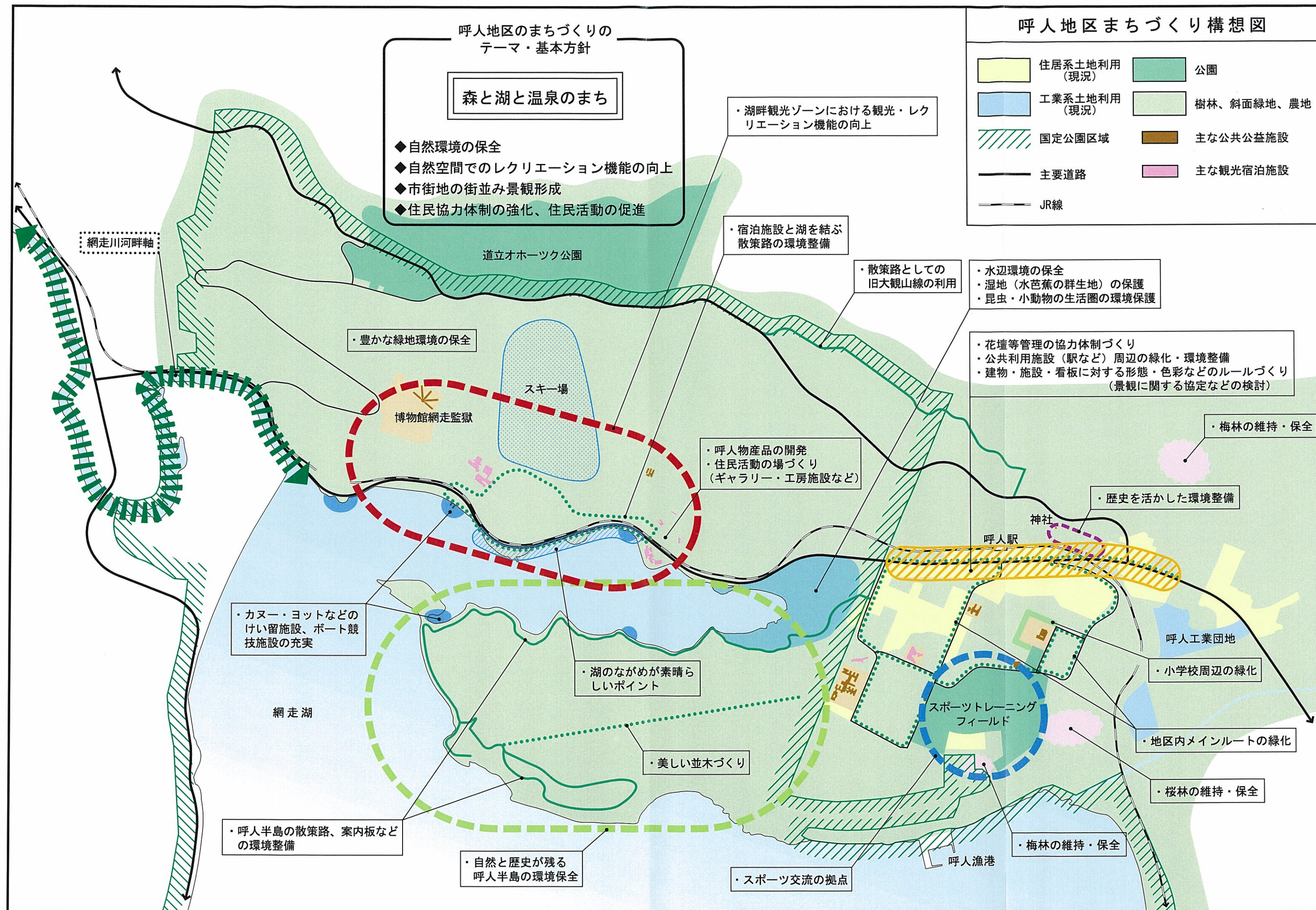
呼人地区のまちづくりの
テーマ・基本方針

森と湖と温泉のまち

- ◆自然環境の保全
- ◆自然空間でのレクリエーション機能の向上
- ◆市街地の街並み景観形成
- ◆住民協力体制の強化、住民活動の促進

呼人地区まちづくり構想図

- | | |
|---|--|
|  住居系土地利用
(現況) |  公園 |
|  工業系土地利用
(現況) |  樹林、斜面緑地、農地 |
|  国定公園区域 |  主な公共公益施設 |
|  主要道路 |  主な観光宿泊施設 |
|  JR線 | |



資 料 編

●網走市都市計画審議会名簿

氏 名	所 属	役 職	備 考
長 澤 真 史	東京農業大学生物産業学部	教授	会長
松 井 丈	網走商工会議所	議員	副会長
山 田 邦 雄	網走漁業協同組合	組合長	
法師人 春 輝	オホーツク網走農業協同組合	営農部次長	
川 崎 多喜子	網走市女性団体連絡協議会	会計	
乾 英 二	網走市農業委員会	会長職務代理者	
渡 部 憲 幸	網走青年会議所	理事長	
田 口 徹	連合北海道網走地区連合会	事務局長	
小田部 善 治	網走市議会	議員	
木 下 良 美	網走市議会	議員	
菅 原 弘 一	網走市議会	議員	
山 田 庫司郎	網走市議会	議員	

●網走市都市計画マスタープラン策定委員会名簿

氏 名	所 属	役 職	備 考
田 中 俊 次	東京農業大学生物産業学部	助教授	委員長
後藤田 生 子	網走市女性団体連絡協議会	会長	副委員長
柴 崎 正 則	網走市観光協会	会長	
菊 地 稔	オホーツク網走農業協同組合	組合長	
小 路 康 子	網走消費者協会	会長	
嶋 田 善 一	西網走漁業協同組合	組合長	
佐 藤 和 夫	網走市町内会連合会	会長	
須 藤 武 夫	網走中央商店街振興組合	理事長	
添 田 浩 司	連合北海道網走地区連合会	副会長	
高 松 菊 男	網走市社会福祉協議会	会長	
波 岡 清 治	網走市文化連盟	会長	
國 田 充	網走バス（株）	社長	
前 田 敏 彦	（財）網走市体育協会	副会長	
津嘉田 栄 正	網走商工会議所	会頭	
佐 伯 晴 幸	網走青年会議所	理事長	
山 田 邦 雄	網走漁業協同組合	組合長	

●網走市都市計画マスタープランワーキンググループ会議名簿

氏 名	所 属	備 考
坂 田 圭 子	東京農業大学生物生産学部	団体推薦（座長）
石 井 一 雄	網走市町内会連合会	団体推薦
植 松 勲	（財）網走市体育協会	団体推薦
川 合 恵 子	網走市社会福祉協議会	団体推薦
菊 地 美喜子	網走消費者協会	団体推薦
北 村 吉 雄	網走漁業協同組合	団体推薦
佐 伯 晴 幸	網走青年会議所	団体推薦
佐々木 昇	西網走漁業協同組合	団体推薦
棧 敷 禎 常	網走商工会議所	団体推薦
竹 内 章 博	網走中央商店街振興組合	団体推薦
長 岡 姫 子	網走市女性団体連絡協議会	団体推薦
西 田 昭 久	網走市観光協会	団体推薦
樋 口 昭 弘	網走市文化連盟	団体推薦
法師人 春 輝	オホーツク網走農業協同組合	団体推薦
松 田 量 太	網走バス（株）	団体推薦
富 士 拓	連合北海道網走地区連合会	団体推薦
梅 村 幾 夫		市民公募（勉強会）
逢 坂 信 治		市民公募
奥 谷 雍 子		市民公募
川 内 剛		市民公募
河 上 景 子		市民公募
才 野 光 男		市民公募（勉強会）
清 水 敦		市民公募（勉強会）
白 根 聡 子		市民公募
高 田 巧		市民公募
高 谷 弘 志		市民公募（勉強会）
富 田 成 一		市民公募（勉強会）
中 野 孝 志		市民公募
橋 本 政 明		市民公募（勉強会）
長谷川 昌 子		市民公募（勉強会）
藤 原 孝 一		市民公募（勉強会）
蒔 田 竹 生		市民公募
松 井 丈		市民公募（勉強会）
宮 田 美 光		市民公募（勉強会）

●網走市都市計画マスタープラン地域別構想ワーキンググループ会議名簿

氏 名	地 区 名	氏 名	地 区 名
石 井 一 雄	北 部	益 村 真	北 部
最 乗 裕 志	北 部	結 城 慎 二	北 部
藤 原 孝 一	北 部	河 上 景 子	北 部
戎 居 桂 三	北 部	松 山 茂	北 部
井 尾 竹 光	中心市街地周辺部及び西部	富 田 成 一	中心市街地周辺部及び西部
中 野 雅 充	中心市街地周辺部及び西部	森 直 人	中心市街地周辺部及び西部
樋 口 昭 弘	中心市街地周辺部及び西部	犬 塚 康 博	中心市街地周辺部及び西部
増 田 博	中心市街地周辺部及び西部	新 谷 基 衛	中心市街地周辺部及び西部
白 根 聡 子	中心市街地周辺部及び西部	古 田 恵 世	中心市街地周辺部及び西部
伊 藤 雅 子	南 部	才 野 光 男	南 部
阿 部 新太郎	南 部	梅 村 幾 夫	南 部
鳥井本 雅 雄	南 部	竹 中 司 朗	南 部
本 間 公 三	南 部	柴 崎 豊	南 部
松 井 丈	南 部	高 田 巧	呼 人
境 博 成	呼 人	宮 本 芳 一	呼 人
清 水 敦	呼 人	村 田 繁 幸	呼 人
石 田 大 輔	呼 人	山 木 祐 一	呼 人
細 木 善 信	呼 人	五十嵐 博	呼 人
佐 藤 一 義	呼 人		

網走市都市計画マスタープラン

2003（平成 15 年）3 月

編集・発行

網走市建設部都市開発課

〒093-8555 網走市南 6 条東 4 丁目

TEL(0152)44-6111 代表

FAX(0152)44-5944